

# ゆいかり

第8回移住者子弟技術研修生  
研 修 レ ポ ー ト



1980年3月

国際協力事業団

ARY

## ま え が き

昭和46年度から実施している移住者子弟技術研修制度も、本年4月に第10回生を迎えることになり、中南米より受入れた研修生は、現在研修中の第9回生も含め、総数143名となりました。

各研修生は幼い頃、家族とともに移住して成人した、あるいは二世の方が選ばれて、父母が生れた土地を踏みしめた感慨は非常に深かったことと思います。

本誌は、第8回研修生の日本到着直後の「日本の印象」と、18ヶ月間の研修終了後の「技術研修を終えて」と、その間の「合同研修会に参加して一京都・奈良旅行」「第19回全国農村青少年大会に参加して」の4編のレポートから各人2編ずつを選び編集したものです。日本における18ヶ月間に、各研修生がその学習と体験から学ぼうとしたこと、学んだことがここに記されています。

研修生諸君の帰国後の活躍がより一層活発となることを期待するものですが、本誌が第8回研修生の報告として、お互いの技術交換の場とし、励みとしていただきたいこと、併せて本研修制度をより一層推進するための材料とし、又各研修先へのお礼の一端にかえさせていただくため発刊した次第です。

最後に移住者子弟技術研修制度を深くご理解下さり、研修生諸君を温かくご指導下さった、関係機関の皆様方にあらためて感謝の意を表する次第です。

1980年2月

国際協力事業団  
移住計画調査部長

JICA LIBRARY



1053183[8]

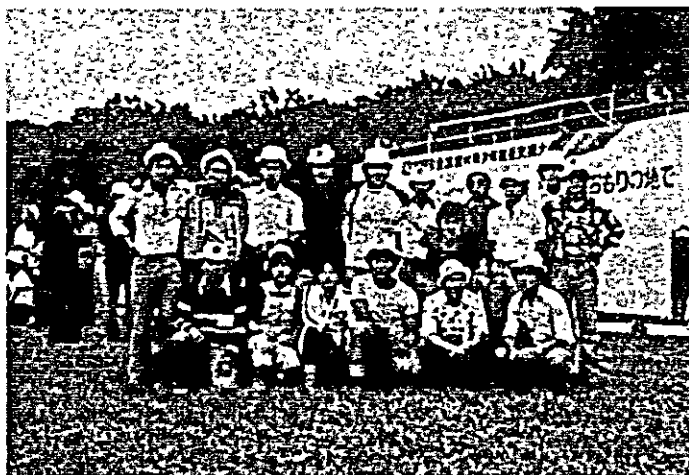
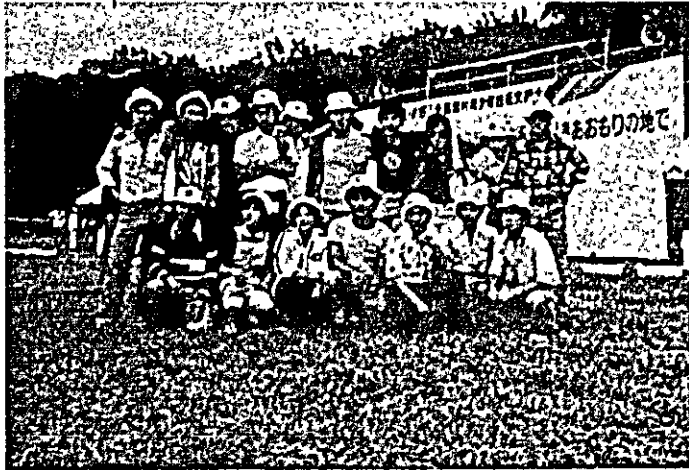
国際協力事業団	
受入 月日 '84. 3.12	700
	23.4
登録No. 00205	EIA

## 目 次

まえがき		
ブラジル国	フンシャール	今村真一 ..... 1
	サンパウロ	林田秀房 ..... 4
	サンパウロ	百合正夫 ..... 7
	クリチーバ	高橋アリ富 ..... 9
	モジ・ダス・クルーゼス	田中勝彦 ..... 12
	マナオス	高野裕弥 ..... 15
	グアマ	横山富貴子 ..... 17
	イタブアン	道田藤吉 ..... 20
	ラーモス	岩崎正基 ..... 22
パラグアイ国	アマンバイ	中島義明 ..... 24
	フラム	松岡健 ..... 27
	アルトパラナ	石原由起 ..... 29
アルゼンティン国	ガルアペー	山田陽二 ..... 31
ボリビア国	サンファン	近藤勇 ..... 33
	サンファン	山口政雄 ..... 36
	オキナワ第1	具志堅進 ..... 38
	オキナワ第3	仲村安英 ..... 40
子弟研究生一覧表		..... 43

(表紙写真：福田勝士氏撮影)

# 第8回移住者子弟技術研修生



## 「技術研修を終えて」

今 村 真 一

昭和53年4月2日に私が第8回移住者子弟技術研修生として日本に到着してからもう1年半の月日がたちアッと驚きました。

私が日本に着いたころ感じた日本と現在感じる日本はだいぶ変わってきた感じがするのです。それは始め自分が外人のような感じがしていたのですが、今はもう日本人に成りきってしまったようです。そういう意味でもこの1年半自分はだいぶ変わったのではないだろうか、それはこの日本での技術研修が私にとってはものすごい勉強になったようです。短い期間に色々なことにぶつかり、色々な人に出会い、楽しかったことよりもつらかった時の方が多かったような気がします、その方が自分のためにもなったような気がしました。

始めに私が1年間の研修を受けたのは福岡県種鶏場でした。ここでは養鶏について基本的な事を学び、おもにふ化、育すう、採卵鶏および種鶏の管理、ブロイラーの育成、衛生管理等養鶏全体にわたる実習と講義を受けました。

種鶏場に着いたころは4月の始めてまだ水も冷たく、毎日の水桶の掃除の時は手が凍ってしまうような気がするのを今も忘れませんが、それもすぐになれてしまいました。どうしても種鶏場なので卵とヒヨコを扱う機会が多く、中でもふ化の時期になるとカワイイヒヨコを見るのが楽しみでした。でも大きくなるといやになるようなカワイグがなくなってきて、でも鶏の一生を考えるとかわいそうな気がします。中でもふ化したばかりで鑑別されてオスは全部ブタのエサになるのです。この時の鑑別を初めて見てビックリしました。あまりにも手早いので感心するほど見とれました。

3か月たつともうだいぶ種鶏場にもなれて育すうから成鶏と管理が変わり、仕事の内容もだいぶ変わりました。中でも色々な試験が多く採卵鶏の制限給餌試験、ブロイラーの熱射病防止試験、給餌時間限試験、種鶏選抜のための産卵調査、鶏ふんの処理方法、などでした。講義は鶏舎構造、鶏の内臓とその働き、衛生、飼料配合方法、養鶏経営をおもに受け、どれも自分にとっては大切な事ばかりでした。実習の中でも毎日の死亡鶏を解剖するのが始めはあまりいい気ではなかったのですが、鶏の病名や病名が分るとだんだん楽しくなってくるほどでも病名を覚えるのにはだいぶ苦労をしました。

研修の中で民間のウィンドウレス鶏舎を見学に行った時あまりにも大きいのにビックリ、なんと1棟に2万羽飼うというのです。ただ日本で困っているのは鶏ふんの処理だそうです。私は種鶏場の人といっしょに民間の養鶏場を回り、鶏ふんの処理について実習をやり、ちょっと臭いけどとっても楽しい実習でした。なぜかという、色々な養鶏場を見て回るので楽しみでした。こうして1年間の種鶏場での研修を受けて残りの半年は民間養鶏場で管理と経営についてを研修をしたいと思い、種鶏場から世話をさせていただきクマエポートリーで研修を受けることになりました。

クマエポートリーでは現在羽数は6万羽の産卵鶏と、3カ月に1回の餌付羽数1万羽入ってきます。私は18人の従業員に混じっていっしょに仕事をしました。やっぱり民間は仕事はきびしく、時間から時間まで休む暇もないほどです。ヒヨコ入した時管理の手伝いをさせていただき、もう大変なことでした。1羽も死なせないよう温度、湿度を時間に見て歩きます。最後の調べが夜10時なので入スした時は気をつかいます。この期間に失敗すると成鶏にまで影響するのです。だからヒヨコの時どんなに大事かが分ります。人間もおなじような気がします。そのためにも良い成績を上げるには良いヒナ、良いエサ、良い管理が必要とする事を教わりました。又経営とはこんな物かと体で感じ、養鶏を合理的にするにはむだ、むら、むりをなくす事と学びました。やっぱり日本の経営はちみつな計画を立ててやっています。なんと書いても健康で無事にこの研修を終えて本当に良かったと思います。1年半の中で少ない休みを利用し旅行にも行き、日本を見て歩けたこと、もっともっと日本に住んですみからすみまで見たいとも思いますが、私にはブラジルでやる事があるのです。日本で学んだ事をどれだけブラジルに持ち帰り、少しでも役立つように努力し、頑張って行きたいと思います。

最後になりましたが、私にこんなステキなチャンスを与えてくれた国際協力事業団、温かく迎えてくれ、親切に指導をしていただき、良くめんどろを見ていただいた、事業団福岡支部の皆様方、福岡県種鶏場の皆様方とクマエポートリーの皆様方に心から御礼申し上げます。この1年半、御世話をしていただき有難うございました。

## 「第19回全国農村青少年技術交換大会に参加して」

昭和54年7月25日から27日の3日間青森県青森市田代平高原で行われました。僕たちは前日の24日に自治会館別館に集まり3カ月ぶりに皆に会って少しも変わったようすもなく元気そうだった。

つぎの日25日10時半に別館を出て青森駅前からバスで会場に向うバスの中は若い人ですぐに話が始まり色々な地方から来ているようだった。会場に着くとすごい人と霧でちよびりハダ寒いと思ったが、1時間も居るともうセーターを着ないと居られなくなるほどでした。開会式が始まるといつの間にか人数も増えてこんなに若者が農業をやっていると思うとビックリ、大会参加者は1,000名と海外からもブラジルを始めにアメリカ、パラグアイ、アルゼンチン、ボリビア、デンマーク、西ドイツ、オランダ、すごい入場行進でした。開会式が終了すると各村別に集合し、僕はあすなるの国岩木山村に参加しました。僕のテントにはブラジルから来た人だけ8人が入ることになりちよびり残念でした。テントの中はブラジルの話ばかりで、もっと日本の青年と交流し話したいと思ったからです。小雨のためにテントの外に出ることも少なく寒い中の食事はちょっと夏とは思えないほど、3日間の夜も寒く寝れないほど、この大会の思い出の一つです。やっぱりこの3日間一番印象に残っ

たことはやっぱり日本で少ないと言われている若者農業者がこんなに力を入れてガンバッテいること、  
なんだか僕もファイトがわいてきました。もう一つはキャンプファイヤーの終りにねぶた祭りがとっ  
てもにぎやかで、ブラジルのカーニバルを思い出すほどでした。3日目のバススクールの十和田湖に  
行き道も美しい景色でおもわずカメラのシャッターを押したくなるほど、ただ残念なのは霧のため八  
甲田山がはっきり見えなかったことです。この3日間が終了した時は自分で技術交換が出来たろう  
かと思った。ただ友達が出来ただけで、それが技術交換だったのだろうか、ちょっと残念な気もし  
た。3日間で友達が出来たがもう会うことのない皆、でもいつかどこかで会える日を楽しみに、こん  
な大きな大会に参加出来たことをうれしく思っています。又来年も参加したいと思いながら楽しかつ  
た3日間を短く感じました。



## 「日本での技術研修を終えて」

林 田 秀 房

私は十人兄弟の次男としてブラジルで生れ、ブラジルで育ちました。父は熊本県出身で母は秋田県出身の子で二世なので、私は父から見れば二世で母から見れば三世になる訳です。

私の住んでいるサンパウロはブラジルの中で日系人の一番多い所で、サンパウロ新聞とパウリスタ新聞と言う日系新聞があって日本のニュースものせるので、日本はだいたいどんな国か想像したり、一度は行って見たいと思った事もありました。

当時ブラズメッカと言う油圧シリンダーをつくる小さな会社に勤めていました。そこに国際協力事業団サンパウロ支部から、一年半の期間で油圧技術研修に日本へ行かないかと言う手紙が来てから、日にちがきまって、飛行機に乗るまで、夢でも見ている様な感じでした。

昭和53年4月2日羽田空港に着き、横浜の海外移住センターへむかう間と、海外移住センターでの5日間の研修の間はいろんな事が頭の中に浮かんで不安なきもちにおおわれました。その中で一番心配したのは日本語が不十分なため、会話や生活をうまくやっていけるかという事でした。

4月7日に研修先、大阪の東淀川区にある、日本でも油圧シリンダーに関してトップクラスにはいる太陽鉄工株式会社に着きました。そこへは会社の寮から通り事になっていました。寮生活は始めてであったため門限などいろいろな規則に慣れるまで大変でした。寮生活にも慣れ、寮、会社での人間関係も最高によく、社長、常務、担当者、寮母、寮生および社員全員よくめんどろを見てくれたおかげで、国から離れている淋しさなど忘れて楽しく過ごす事ができました。

研修の方は、まず油圧がどの様な所に使われているか、シリンダーはどんな使いかたをされているのかを知るため、システム機械事業部で約2カ月間実習しました。このシステム機械事業部での実習の中で、常務の心遣いで、せっかく日本へ来ているので任かの会社も見学したほうが将来なんらかの形で役に立つだろうと、システム機械事業部から三菱自動車工業へ機械を掲付けに行く時にいっしょに行つて見学して来るようすすめてくれました。

システム機械事業部での実習から、シリンダーの組み立て方やシリンダーの部品名を覚えるために、特殊シリンダー組み立てラインで約3カ月間実習しました。

組み立てラインでの実習から、シリンダー設計で約4カ月間実習しました。シリンダー設計の方では油圧シリンダーの部品の強度計算、製図、シール関係を教えてもらい、図面をかくのを手伝いながら、ひまな時に強度計算やシリンダー設計の練習をしました。

シリンダー設計での実習から、のこりの約9カ月間研究開発グループのユニット関係で研修しました。研究開発グループの方では、油圧技術の基礎、油圧回路の記号、油圧機器の特性、油圧機器の種類、油圧作動油、作動サイクル、シリンダー出力の計算、シリンダー速度に対して必要な流量、配管

抵抗の計算、機器の圧力損失、必要圧力電動機の必要入力、タンクの決め方、ポンプからの発熱の計算、リリーフ弁からの発熱の計算、アクセサリーの選定方法、油圧回路の組み方、油圧回路図とこの順番に教えてもらい、油圧回路図などを書くのを手伝いながら勉強しました。研究開発グループでの担当者は出張の多い人でしたので、担当者がいなくてひまな時には空気圧弁などのテストを手伝ったり、空気圧弁などの図面を書くのを手伝ったりして空気圧の方も少しは勉強になりました。担当者のいる時は、忙しい身でありながらいろいろと教えてくれたり、油圧技術専門の本を買って時どきに付添ってくれたり、油圧見本市などに連れて行ってくれたり、いろいろと苦勞をかけました。

寮母さんが研修はもちろん大事だが、日本を見る事も必要だと言ひ、会社で休みが続く様な時にはキャブなど手配してくれたおかげで、富士五湖、北海道、沖縄と母のお父さんの出身地秋田へと旅行ができました。このほか国際協力事業団から、奈良、京都、青森へと合同研修会で旅行して、父の出身地熊本へは研修旅行として行きました。

私が日本に来てもう一年半が過ぎようとしているが、この長いようで短い期間に、つらい事もあったが、いろいろな事を経験できてほんとうによかったと思っています。

研修中に多くの人と知り合う事ができいろんな所を見学しました。これから帰国し、日本で学んだ事に経験を積んで広めていくつもりです。

この一年半の間あたたかく御指導して下さいました太陽鉄工の皆さん、又この様な機会を与えて下さった国際協力事業団の皆さんに心よりお礼申し上げます。

## 「合同研修会に参加して」

今回の合同研修会は僕にとってはもう行った事のある所が多かったのですが、団体に加わって行ったのは初めてでした。特に、この合同研修会は国際協力事業団が計画したもので、第8回移住者子弟技術研修生全員が集まったので、いろいろと話合った事、久しぶりにポルトガル語で話せたこと、ブラジルから来ている友達と会えた事などを合わせた楽しい二日間の研修会でした。

研修に回ったのは奈良の宇治平等院・法隆寺・薬師寺・唐招提寺・春日大社と京都の嵐山(渡月橋)付近、平安神宮・二条城・清水寺です。

宇治平等院は今まで見て来たいろいろなお寺の中で一番さわやかな庭がありました。

春日大社は時間がたりなかったために、お寺は入口からちょっと見ただけですが、ほかのお寺とどこか少しちがっているように感じました。このお寺を囲む公園は野性の鹿を放してあって何だか自然なジャングルにでもいるような気がする何とも言えないすばらしさのある場所でした。

二条城へは今度で二回目になりますが、何かい行っても飽きそうもない所です。まだブラジルに居

た時分に想像していたお城は日本へ泊って今まで見物して来た大阪城と熊本城の様な建形で、二条城へ初めて行った時は外側からはへいしか見えませんでした。何となくお城の様な気がしましたが、門をくぐって中へ入ってからは、すばらしい庭、警戒のための細工などを見て回ってはいましたが、どうもお城を見物している様な気がしませんでした。

消水寺へも今度で二回目になりますが、初めて行った時はただ風景を見て回ってお寺については何も聞いてなかったのですが、今度はいろいろ聞きました。例えば雨の降っている日にお参りすれば効きめがあると言う迷信や、石に大きな足跡があるのはお釈迦様の物だとか、建物の下拵えは木の組み合わせて出来ていて、くぎは1本も使っていないなどと聞いて感心しました。

この研修会は楽しかったのですが、一つの所を見物する時間が短かすぎたと思いますし、奈良まで行って大仏様を見られなかった事が残念でした。

今は東京、昔は京都と言われるだけあって今でも京都には昔のお寺とか、お城とか、いろんな昔からの建物が大分残っていて日本全国からと外国からの観光客でいつも人が多くてにぎやかな事だと思います。

日本みたいに狭い国に、昔からの伝説とつながるお寺・お城・昔からのいろんな建物とそれぞれの広い庭などを観光地として残してあるのが不思議に思え、また感心するほかありません。

## 「技術研修を終えて」

百合正夫

昭和53年4月2日、生まれて初めて父の故郷、日本の土を踏みました。日本に来て、早くも一年半の研修期間が終わろうとしています。月日の過ぎるのが早いのはびっくりします。日本に着いた当時の私は、とっても不安でいっぱいでしたが、下宿のおばさんや、先生方、また、学生の皆さんが親切に日頃の生活、習慣を教えてください、すぐに日本の生活にとけ込むことができました。春の山菜狩り、真夏の海水浴、秋の紅葉、冬のスキー、スケートと、ブラジルでは味わうことのできない日本の四季を肌で感じとることができ、一生の思い出になるでしょう。また、ボーリング、パチンコ、バッティングセンター、早起き野球などのゲームをしたこと、又、これを通じ、良い友達が大勢できたことも良い思い出となりました。昨年9月9日、皇太子御夫妻がお見えになり、頑張るようにと激励して下さったことも強く印象に残っています。研修先の長野県農業総合試験場は、長野県の北部の須坂市にあります。試験場の周囲は、各農家のリンゴ園が続いています。ここで、研修の目的として考えていたリンゴ、ナシの栽培技術について、試験場の先生方の指導を得て、十分ではありませんが身につけることができました。私の家はもともとバレイショづくりを主体としていましたが、バレイショは、経営的に極めて不安定で、10年前のバレイショづくりの失敗を契機にブドウ栽培を試みました。当初は、栽培技術は全然なく、多くの困難を伴いましたが、今では安定した生産を続けています。8年前に日本からブラジルへリンゴ栽培の技術指導に来られていた後沢先生は、ブラジルでのリンゴ栽培の道を開き、今では栽培を国内で行なうようになりました。私の家でも3年前にリンゴ、ナシを定植し、本格的な栽培をしようとしています。このような状況の中で、栽培技術を身につけるため、長野県果樹試験場で研修を受けることができることになり、大変うれしく思いました。リンゴ、ナシの栽培技術の具体的な研修内容は次のとおりです。

### 1. リンゴの品種について

日本では中部以北を中心に、早生種から晩生種まで、たくさんのおいしい品種がありますが、中でもふじ、つがる、スターキングは基幹品種として多く生産されています。サンパウロは気候が暖かいため、それらの品種を直ぐに導入しても、営利栽培は成り立たないと思いますが、サンタ・カタリーナの様な高冷地では、十分栽培できると考えられます。また、試験場にあった品種の中から暖かい所でも栽培できる品種を家に帰ってからためしてみたいと思います。

### 2. リンゴの剪定について

私のリンゴ園では、早くから収量のある品種の良い、また省力できる、わい化栽培を取り入れていきたいと考えています。樹形は、主幹形を採用し、剪定にあたっては樹勢のバランスと、日照、防除、などを考えながらやっていきたいと思っています。

### 3. 病害虫防除について

日本とブラジルでは、リンゴに発生する害虫や病気の種類も違いますが、防除のしかた、薬の種類はそんなに変わりません。この研修で身につけた防除方法を参考にしながら、防除作業を進めていきたいと思います。

### 4. ナシについて

ブラジルでは、西洋なしが主体となっていますが、これからは品質の面から日本なしにも注目して行きたいと思います。ナシの木の管理は、リンゴの管理とそんなに変わることはありませんが、特にブラジルに適する早生種を試してみたいと考えています。この研修が終わるにあたり、色々御指導くださった国際協力事業団の職員の方々、長野県農業総合試験場果樹試験場の先生方、及び学生の皆さんに深く感謝します。

## 「日本の印象」

私は、国際協力事業団ブラジル国、サンパウロ州の研修生として、長野県農業総合試験場の果樹試験場へ来て果樹園芸の勉強をしはじめて二カ月を迎えます。

日本に来る前のサンパウロで1ヶ月間は出国手続き、特にパスポートは出発する直前に出来る始末でとてもあわただしい旅立ちでしたが、機内では希望を胸に心は、とてもはずんでいましたので、あっという間に羽田に着いていました。

僕にとって初めての日本は夢のようでしたが、人の多いことと、寒いことにはびっくりしました。しかし、この人達と同じ血をひく僕には、みんな友達のように見えてたいへん親しみがわきました。それにブラジルでは、見たことのない物が多く優れた日本の文化にはおどろきました。

長野県には電車で4時間位ゆられて来ましたが、ずっと家が続いていてどこがどこの町か全々見当がつかせませんでした。また線路沿いの果樹園に植わっている40数年生の大きなリンゴの木や、真白い雪がつもっている遠くの高い山々など、ブラジルでは見ることのできない美しい景色でした。

試験場に着いたのは4月6日ですが、初めて試験場の大きな建物を見た時、これから1年りんごの勉強をしていくんだと言う気持ちでいっぱいでした。それからの実習や講義は漢字の意味や作業のわからないことなどを先生方や実科生、研究生に教えてもらい、勉強しています。またこうして毎日こまかい所まで手を加えて、日に日に大きくなっていく果実を見ていると早く熟したりんごが見たいな一と思っています。

生活面でもだいぶなれて、親しい友達もでき、毎日の勉強と本当に楽しくなりました。

今は恋しいブラジルのことを考えるよりも先に研修をおえて帰った人の先輩に負けないように努力しなければならぬと思っています。

1

## 「技術研修を終えて」

高橋 アリ富

1年半の研修のレポルタジェリ

高橋アリ富、ブラジル国、ニセイ、生れ年1952年8月8日、パラナ州ウライ町

1977年12月パラナ国立大学で獣医卒業して1978年4月日本へ来ました。7人兄弟の6番目になります。父や母は、48年前ブラジルに移民で渡って、その時つらくて農業で勤めることが出来なかった。またポルトガル語は出来ない、金もない、有るのは自分の力と大きな夢、それは故郷へまた戻ることでした。

時は流れて、子供は大きくなる、ブラジル国の学校で勉強する、日本はだんだん苦しくなる時代だった。

今見ると、48年たってからながい、ながい旅行だったとお父さんとお母さんは言います。毎日、毎月とあつめてとうとう48年たった。今は71年日本人の移民ブラジルには日系人750,000人こえるぐらい、もうブラジル2世の国になっています。またブラジル人といってもほとんど外国から入った人で、みんなで力をあわせてあたらしい国をつくらうとしているところです。

ところで見ると日系人は125~130人の中にはたった1人の割合です。でも大学に入っているのは20~30%は日系人です。

私はたった1人で日本へ水産についてのひとつのきじゅうつを学ぶためやってきました。ブラジルは広い国でたくさん川の川もあり、海岸線も8,000km以上あって、これからは水産の方もどんどんすすむでしょうと思います。

— x — x — x — x — x — x —

研修について

1978年4月~1978年9月15日

この半年、石川県ぞうしよく水産試験場でくるまえび研修にありました。えびのしびようは5月中旬ごろからはじまり、それまでいろいろと勉強していました。日本語の勉強もしましたけれどなかなかむづかしいですね。

本当にいえば、私日本へきてから少しできるようになった。海外移住センターで昨年説明があったときはほとんどわかりませんでした。2カ月ぐらいアワビとタイを見ていました。6月にはいって、えびの餌づくりをはじめました。

しよくぶつプランクトンのようしよく

タンク、さんそ、たねえび、なまえさ、水の関係とえびのつくりかたの研修をしてきました。きゅう

うけいのときは楽しくできた。友だちとつきあってとても良かった。

9月15日～19日まで熊本県の天草まで研修旅行にきてから10月1日まで、父と母のふるさとおじさんのところに行きました。

1978年10月2日～1979年2月28日、そのあいだ静岡県富士宮市でニジマスの研修にいきました。

10月から1月10日まで静岡県富士養鱒場にいましてマスのたねおすとめすのせんべつ。めすのさいらん、ふかし、えさ、ちぎよのそだちかたと水のしょうどく、びょうき。

1月～2月28日までではみんかんのところへ猪之頭養鱒場でみんかんのやりかた見てきました。そのみんかんの会社土田貢様にもいろいろとおしえてもらいました。またやさしくていろいろとお世話になりました。マスの方もむずかしいことですが、いい研修ができました。

高いところで富士さんも冬のところを見ました。また秋にもしぜんでかわるところも見ることができました。

1979年3月～1979年9月30日、熊本県天草の矢野町維和島でくるまえびの研修にまいりました。さく年石川県でやったのと同じえびですが、ここではえび全体について研修しました。たねえび、ふかし、えさ、水の関係、また養殖をやっておりますので、そちらも少しは勉強しました。

2回目もえびの方見ますとだいたいのノウハウはつかんだと思います。また、民間の会社の丸山みどりさんもくわしくわかるようにおしえてくれました。

えびについては、養殖と小さいえびつくりの技術も学んだと思います。それで2年も前希望もっていたことはできたと思います。それは、日本へ行ってえびの技術もりたいということです。

ブラジルへかえってすぐにならったことができるか、10～20年後になるかはわかりませんが。

— x — x — x — x — x — x —

みなさんに

この1年半私日本にいるあいだ、いろいろとお世話になりました。

日本人のあたたかいところをどこまでいっても、いつまでもわすれないと出います。いろいろとありましたけれど、とくにいいところがまちがいに、はっきりと、今見るとわかります。また、石川県水産試験場のみなさんにごめいわくかけました。それは外国からすぐにあちらにいったので、ことばもわからずにみなさんにやさしくめんどうをみてもらいました。

静岡県の富士養鱒場と猪之頭養鱒場の土田貢様とみなさんにもたいへんお世話になりました。

熊本県水産試験場のみなさんと、丸山みどりさん(丸山水産)にも本当にお世話になったのは、いついづまでもわすれないことになりました。

さいごに国際協力事業団のみなさんにも本当にここからありがとうございます。みなさんのあ

たかいところと、きょうりょくがなければ今のようないけんしゅうができたとおんしんしたきもちでかえられることはとてもできなかつたです。どうもありがとうございます。

私は外国人で、そだちがらうので、日本のエチケットといろいろわからないことありました。とくに日本語もやとおはなしできるぐらいで、ごめいわくかけましたと思います。けれどわからないときだと本当にしんじてよい。それで私からごめんくださいともしあげます。

## 「日本 の 印象」

日本へ来るときは本当に家からとても遠い国まで行ってるのが夢じゃないかと思って羽田空港に降りたのです。すぐに父母に言われたのをおもいだしました。たしかにまだ日本はちょっと寒いかわからない、本当にとても寒かつたですね。

空港にいるときは、どんな人の顔を見ても皆同じように見えていました。日本にきてても友達といるときはそんなにべつにしんばいがなかつたですね。それから皆で別れたら、もう本当にしんばいだったですね。しんばいしたのは、私まだ日本語できないからです。

石川県に来るときはあちこち見て、とても狭い国と思ったのです。でもしょうずにはたけも田もやりましたね。来るまえから私はわかつたのです。日本は進んでいる国だ。水産の方はせかいで一ばんだと思ひます。

石川県に来てからびっくりしたのは、海の水きれいな水だな、しけんじょうの人もほんとにいっしょうけんめいはたらきます。今みたくなると、ひるもよるもないみたいではたらいていますね。いなかの方だからわからないけれども、日本人はとてもいい人だと見えています。どこへいっても、なに見てもべんりになっていますのはびっくりしました。人は、ほんとにだいにしている国だ。日本語はよみかたがとてもむづかしいね。はなしするのはそんなにでないですけど、本当にことばはだいになものですとはじめてわかりました。

ブラジルとくらべると、本当に日本は島ですから海からできたもの食べます。いままで私たちが、ふと思つたのはそのぐらいです。これから夏、秋と冬になればまたべつに日本の国の見かたがありますかかわからない、それだけでですね。

いまから、まだまだがんばります。よろしくおねがひします。



## 〔第19回全国農村青少年技術交換大会に参加して〕

田 中 勝 彦

拙げよう 我等が夢  
みがこう 我等の技術  
緑深き あもりの地で

この大会のスローガンに呼ばれて、23日 17時30分 高知で研修中の松岡君と高松駅を出発しました。大阪からは夜行“北国”で日本海と北陸のけしきを見ながら、約20時間のり、つくづく日本の広さを知りました。

当日は、伊藤職員の指示にしたがい、バスで青森市から約1時間の田代平高原にはもう全国の若者たちでごったがえしており、さっそくキャンプ地がむかえてくれたのは寒さと少しうっとりしいよくなきりでした。

入場式は海外をトップに(アメリカ、ブラジル、ドイツ、オランダ、デンマーク、パラグアイ、アルゼンチン、ボリビア)国旗または県旗を持っての一千人をこす日本全国の若者たちの盛大な参加であった。

若いリーダーたちの開会式でのあいさつがきびきびと、積極的で一千人の前でよくあがらず、スラスラとじょうずな話ができるものとりっぱだと思いました。

テント内は8人全員がブラジルであり、ブラジル4日から来た2人もふくめて現在のブラジルの状況や、ピアーダなど聞かせてもらったが、僕の意見としては、もう2カ月するとイヤと思うほどブラジルの事がわかる事だし、それよりもみんな各テントにちらばり、日本の若者たちの夢、悩み、農業技術などの意見の交換をして、もう少し日本での研修をよりいっそう有意義につかえたいと思います。

テント内にあつまった者みんながうたをニガテとしていたため、3日間のキャンプ生活に1曲もうたがでなかったことはザンネンです。

自衛隊の協力が目立ち、設備や食事はすべて隊がつくってくれ、料理の献立など良くできていたと思います。

演説発表は森にかこまれた空の下で、同時間に12会場で行なわれ、こんざつはしなかったが、何か物足りない感じがしました。野菜の第3会場でトラクターを利用した畦立機はタマネギの定植時につかうのだが、それをニンジン、ビート、ダイコンなどにもつかえるので、かんたんな機械なので、自分も作ってみようと参考にしました。

夜のキャンプファイヤーでは、スケールのでっかい約30mの高さのたき木に参加者全員が丸くかこみ、作った4つの国のアトラクション合戦でにぎわった。

一番もり上ったのは、やはり何んといっても、青森県を代表するねぶた祭りであった。ラッセイラ

ー ラッセイラー ラッセイ ラッセイ、ラッセイラーのかけ声はテンポが早く、足を地につく間もないくらいのリズムに、やがてぜんぜんおどり方を知らない僕までつられておどりました。

一人一人の持ったトーチがゆっくり、ゆっくりと、ファイヤー会場からキャンプ場へ引き上げる時にうたった若者たち、ふるさと、今日の日はさようなら、などは心にしみて、あの場面は頭に焼きついてしまいました。

次の日は、バススクールで十和田湖と、奥入瀬溪流などを見学、岩石と水の自然の美しさに目を見はったものです。

青森駅では地元の若者たちに熱いみおくりを受けて解散。沢山のすばらしい思い出を作ってくれた青森よ。さようなら！

## 「日本の印象」

昭和53年4月2日から僕の新しい人生がはじまりました。その日、バリグきは、午後5時に羽田空港に着き、どんよりとくもったさむい一日から、ゆめにまで見た日本での生活がはじまります。

さて、日本に着きまず感じたのは、時間にげんじゅうである事だと思いました。たとえば移住センターでの起床、朝食、先生方のこうぎなどのスケジュール。または新宿駅で降りた時は、めまぐるしいほど人山のむれで、右に、左にと、だれもがいそがしそうに、ぶつかっても、あやまる時間がおしいかのようで、時計が人間をしはいしていると言った感じを受けました。

日本は、いなかへいってもズラーと家が立ちならび、道はせまいながらも完全なほど、ほそろされしており、川とガケなどもコンクリートでかいりょうされており、一見せいけつさを感じました。

いなかでも、すぐ近くに小型スーパーがあり、店の外にはかならずと言って良いほど自動販売きをすえつけてありべんりである。

日本でのサービスぶりなどは見ならう点が多いと思った。たとえば、デパートに行くと必らず店員が「いらっしゃいませ」と一人一人に頭を下げ、エスカレーターに乗ったらまたマイクではっきりした声で各かいのあんないをしてくれます。バスに乗ればこれまたマイクで、うんでんしゅさんが次はどこ、次はことと各ていりゅう所の名前を言ってくれたり、バス内のせつびに「急ブレーキにちゅうい」「右、左にまがります」などのランプも毎回つきます。

日本の車は、さすがアメリカの自動車業界を脅かすだけあって、性能、エンジンのちょうし、ガソリンの経済性、デザイン、車内の設備、エアコン、カーステレオ、どれを取ってもすばらしい。車のハカバに山もりに積んで、すてであるカーなど僕のヤツよりよっぽどまじに見え、日本人はちゅうびりセイタクで、見えっぱりだナーと思いました。

トラックとトラクターなどは、たくましいと言われカワイイのイメージがピッタリと思う。

日本人のエコノミック アニマルぶりも、少し拝見したと思います。日曜日の商店がいなどは、かえってふつりの日よりイキイキと活発で、いなかでも平日どおり田んぼ、あるいは畑で、過ぎ去った一週間のように、またいそがしい一日をすごしているようだ。

いなかの中年の女性たちの働きぶりにはビックリ。農作業はもちろんの事、道路工事にはスコップにジャリをはこんだり、フルハンを持ってダンプに乗っていたり、ある時はせいざい所で、あのあぶない電気ノコをつかったり、重たい角材の持ちこびなどの重労働するなどは、日本の女性であってこそ出来、大げさに言わせてもらえば、こう言った女性たちの影の力が日本の経済成長を伸ばしたのではないかと思う。

やはり日本の印象の代表は、どう言っても横浜から研修先にむかう途中、汽車の中から見たゆうぐれの中のすばらしいふじ山でした。大きく、強く、たくましく、あのふじ山のように自分もなろうとけついたしました。です。

## 「技術研修を終えて」

高野裕弥

1年半の研修を終り、後1ヶ月あまりになりました。

僕は昨年(昭和54年)の4月2日、日本に来て苫小牧専修職業訓練校に入りました。来た当時は色々と事情がありまして不安でした。けれども訓練校長を始めとして、先生がたの暖かい心のために1年間研修を終えました。この1年間僕にとっては最高でした。技術を身に付けることと、人間関係。一番に人間関係。僕は長い間、ブラジルに居てブラジル人とはばかり居たため僕の性格はまるっきりブラジル人になって居たのです。日本人から見ると、きっとこれでも日本人かと思われるくらいでした。訓練校の寮に入り、日本の若い人がはつらつとしているので、僕もそれを見て敗けられないという気持ちになったのです。僕にとってこの1年間、これが一番自分の為になったと思いました。二番目には技術です。僕の住んでいるマナオス市には、4年間の自動車学校があります。ところが日本に来て1年で大体の技術を身に付け、6ヶ月間会社で一般の整備を出来るなんて本当に考えてもいませんでした。三番目には日本語です。僕は日本で一番不安を感じたのは、日本語の読み書きが出来なかったことです。3ヶ月間まともな勉強になりませんでした。ただ漢字を覚えることだけが頭の中へ有ったようでした。4ヶ月に少し、読み書きが出来るようになり、それから本当の技術研修に入りました。昭和54年3月17日訓練校を修了して4月2日から北海道運搬機株式会社へ研修に入りました。僕は、重機関係に入り、先輩達に教えられました。僕は恵まれていたために、先輩達は良い人ばかりで色々と教えてくれました。会社での付き合い関係は訓練校とは一段と違っていました。そこで会社での付き合い関係をじっくり教えていただきました。僕はつくづく思います。「日本に來られて良かった。これで3年ないし4年間を1年半の間に進んだのではないかと思います」この1年半、良いことばかりとは言いませんけれども、80パーセントは良いことでした。これも偏に国際協力事業団のおかげです。それから日本で僕を暖かく囲まってくれた訓練校の下村康之校長殿この人は僕を自分の子供のようにし、他人でもこうしてくれるのは始めてでした。本当に有難うございました。訓練校の先生がた、北海道運搬機の皆様に1年6ヶ月間暖かい心で見守って頂いてどうも有難うございました。国際協力事業団殿この1年6ヶ月間の研修をさせて頂いて感謝しています。この研修を決して無駄にはしません。日本にいる間御世話になった方々には色々と迷惑をかけてすみませんでした。心より御礼申し上げます。

## 「合同研修会に参加して」

今回の研修について少し書きたいと思います。ぼくは11月3日に千歳から飛行機で大阪に行き、

それからバスで京都に着きました。着いた時はまだ1名しか来ていませんでした。5時には全員が集まり色々話をしました。事業団の人が来た時には全員が集まっています。ぼくたち研修生に色々話をして皆の意見などを聞いたり話したりしました。7ヶ月ぶりなので全員でブラジルから来た人はポルトガル語、ポリビアとほかから来た人はスペイン語を話し全員楽しそうでした。6時半に夕食を終り、7時に京都の町を見物に行きました。京都の町は大変美しく、なんとなく日本の町だと思いました。11時に旅館に帰って来ました。つぎの日には奈良の見物に出かけました。奈良はお寺が大変多いところだと思います。奈良は戦争の時爆撃されなくて良かったと思います。全員でお寺回りをしながら思いついたのは、本当の日本の美しさは素晴らしいものだと感じました。それからお寺には外人が見物に来ていました。やっぱり外国には寺などありませんからでしょう。ぼくが一番奈良で美しいと思って見て来たのは東大寺の大仏です。さすが有名だけあって大した物ですね。6時に旅館に帰って来ました。夜に友人と京都の町は酒のおいしい何処だと聞いていたので飲んで来ました。15日には京都の町をバスで走りました。京都の町も美しい所ですね。京都の見物で一番美しい所だと思ったのは平安神宮です。なんと日本の園は小さいけど、お寺などは大きい土地を持っているのですね。2時半に解散して全員が散らばりました。今回の研修は全員の気持、考えていることが少し分って来ました。ぼくたちは知らない人ばかりが集まっているので、こういう機会がなかったら皆んなの気持が分からないうちに1年6カ月がたって帰って行くので、友人にならないうちに行ってしまいます。ぼくが研修で一番感じたのは、この8ヶ月の間に研修生たちは日本語が上手になっているのと、来た当時の態度が変わっているのが一番目につきました。この研修は、ぼくにとっては最高の気持でした。まさかこんなに早くに日本に来て京都と奈良を見物出来るとは思っていませんでした。今回の研修は非常に楽しかったです。

## 「技術研修を終えて」

横 山 富 貴 子

花が満開の4月、両親の話しを通してしか知らなかった日本に来てから早1年半が過ぎました。今ふり返ってみますと、時の早さに驚くばかりです。私の研修課題は「生活改善」でしたが、果してブラジルに帰り、役に立つのか疑問です。しかし、この一年半「生活改善」という事だけにとらわれずに幅広く、日本の文化に触れる事が出来たのではないかと思います。例えば日本古来からある茶道、蒸道、雑刀等普通の日本人さえ特別に学ばなければ出来ぬ様なものに巡り会えた事だけでも収穫でした。それに日本の栄養士のタマゴと共に食生活について学びました。最初、授業は難しい日本語がボンボン飛び出して来るので、困りましたが、日本の仲間が応援してくれましたし、先生方も非常に協力的で、どうにかこうにか今日に至った次第です。

学校生活は、全寮制だった為比較的、規則正しく送れました。朝は5時半に起床し、6時に礼拝があり一日がはじまります。この学校は自給自足を目標としていますので、皆、計画的に自分達に必要な食物等を作っています。まず食事は、栄養士さんが一人いてその下に栄養科の生徒がついており、実際の栄養の仕事を学びます。ですから献立は自分達でたて、それを栄養士さんを通してもらい食事をつくるといったパターンです。この栄養で使用する野菜、果物、米はそれぞれ、蔬菜、果樹、普通作といった部門について生徒の手で作られます。ですから栄養では、その季節に合った献立を作り、無理のない食生活をこころがけています。それにその季節にたくさんとれて保存のきく作物は、加工という部門に行っている生徒の手により、ビン詰め、等にされます。春ですと筍、ふき、夏ですと、トマト・ピューレー、苺ジャム、秋、栗のシロップ漬、ぶどうジャムやシロップなどたくさんのが出来ます。現在問題となっている保存料など、まったく使用していませんので、人気があるようです。毎週火曜日には鶏の解体、水曜日には製パン、金曜日にはうどん、土曜日には豆腐と決まっております。そこで作られたものはみんな、食事に使えます。その他には牛乳や卵は、畜舎という部門に行った生徒の手により、作られます。そこには牛や鶏のほかには羊や豚が、数は、それほど多くはありませんが、ふり、エサの世話から糞の世話までしています。豚は出荷するだけですが、羊からは、春に毛を刈り、その毛を生かして、織り物をしたり、ふとんを作ったりしています。ここで、家畜の糞を利用して、作られた堆肥は、先の蔬菜や普通作に持って行かれ、作物の肥料として利用されます。

皆が食事をするテーブルの上には、美しい花が、常にかざられています。それは温室という部門に行っている生徒の手により、長い時間をかけて作られたものです。草花が主ですが、近年になり洋蘭なども作りはじめたようです。日常、家庭でも作る事が出来る様に指導してくれますので、大変役に立ちます。この様に、それぞれの部門に分かれて、実習をしますが、みんなどこかでつながっており、大変便利です。この実習でどの部門に行くのかは、一年は、一週間交代、二年になりますと一

ヶ月交代の長期当番となります。長期当番の内容としては、栄養部門では、自分で献立を立て、献立作成者が全責任を持って、当番の人たちを指導し材料をそろえ、三度の食事を作ります。

畜舎部門は酪農、豚舎、鶏舎、肥育に分れて、その部署の責任を持って、作業をします。酪農は糞出、餌くれ、搾乳をします。蔬菜は、畜舎から鶏糞を持ってきて肥料を作り畑にまいて、いろいろな野菜を作り、栄養に出します。果樹は、ぶどう、梨、いちご、を作り、栄養や加工にまわして利用してもらいます。普通作は落花生や麦を作り、栄養に出したりします。麦は、ご飯の中に入れて食べています。温室は、みんなの好みそうな花を作り、販売したり、食堂にかざったりします。いろいろな部門で、二年生になると、ある程度の責任をもって、一年生を指導して、作業をすすめていきます。この作業で、上に立って指導をするむずかしさがわかりました。

また二年になると校外実習があり、学校給食実習を5月にしました。小学校、中学校に分れて実習しました。給食を作り、生徒と共に食事を食べていろいろ話しをして楽しい実習をしてきました。先日は東京の北品川病院で、実習をしてきました。たくさんの人々と知り会え、いろいろ知り、勉強になりました。まだ、もう一つの病院実習と保健所実習があり、これらも私にとって大変勉強になることと思っています。

この実習を通して、ブラジルでは出来ない作物や果物を知り、又実際にそれを作り、食べて生活してみても、ブラジルとずいぶんちがいがあふ事を感じました。これからブラジルに帰りどれ程役に立つか、私がどれほど覚えたことを応用できるかによります。

日本に来て、たくさんの人々と知り合い、また雨は、和歌山、北は北海道と見学及実習をして来ました。

自分で、実際生活をして、人間関係のむずかしさ、大変さがつくづく感じられた時が少なくはありませんでした。

この一年半の寮生生活は私にとって大変勉強になりました。

日本で、こうして学べたことは事業団の皆様方のおかげです。心より感謝を致します。

## 「日本 の 印象」

私が、日本に初めて足を踏んだのは東京です。

一番最初に、かんじた事は、何んていそがしい落ち着きのない都市と人々たち。

さらに、かんじた事は、気候の違いだろうと思う。日本という国は、特有の四季があり、私が着いたのは、いちばんさわやかな春、また少しはだ寒い頃です。

そして、今二ヶ月が過ぎ去って日本の生活に慣れつつあります。

日本に来る前と実際日本の生活をして見て感じたのは、全くというほど違いがありました。一番の違いは、何といても農業と人間関係です。

農業に関しては、今まで経験して来た私の農業というのは、大規模化された農業で、日本に来て経験している農業は一人一人の手で、一つ一つ正確なものを生産していく本当に農業のたいへんさ、さらに一層農業のすばらしさを知らされました。

5月中半近くお茶つみという行事がありました。5月というのに、とてもあつい毎日でした。その中で、私が汗を流したくさんの一つ一つの新芽を摘み、聞こえるのは小鳥の鳴き声と、みんながお茶を摘む音だけの時間を過ごしました。

今は、私の摘んだお茶も出来あがり、いい香りをただよわせています。

人間関係に関しては、岡というへだたりはなく、どこの間も一番むずかしいと感じさせられました。今の私の生活は、全寮生なので、いつも人間に囲まれています。先輩と後輩、先生と生徒のつながり。

身近かに人間関係のむずかしさを知りました。思います。でも私は、私なりに、せいっぱい頑張っていきたいと思います。



## 「全国農村青少年技術交換大会に参加して」

道 田 藤 吉

大阪を24日出発して青森についたのが25日朝でした。事業団の研修生の人達はみんな先に来ていました。事業団の研修生達と会ってすぐにバスで八甲田山へ向いました。青森県についてすぐ感じた事は東北と今私が研修している九州と気候の違い。会場には全国の農村青少年達が千名以上集まっていた。海外からアメリカ、ブラジル、デンマーク、西ドイツ、オランダ、パラグアイ、アルゼンチン、ボリビアが来ていました。日本全国から各県より農村青少年クラブ員が集まっていた。みんな集まった所で40名ぐらいでキャンプ村を作ってぶんさんされた。その夜はあいにくの天気であまり良く眠れなかった。26日朝早く起きて朝食をシートの上でみんなと食べた。そして参加者の中から8名の方から体験発表や将来の農業経営についての考え方を聞きました。それで気付いた事は現在の世界の農村における厳しさは燃料不足による価格の暴騰である。その夜はきゃんぶふもいやがあって青森県の農村青少年のクラブ員の方からねぶた隔りを火のまわりで習いました。27日になりバススクールで十和田湖と青森県のりんご試験場を見学した。昼から青森の駅の前でかいさんした。青森県の研修については多くの人々と知り合えたことがよかった。

## 「技術研修を終えて」

昭和53年4月3日に国際協力事業団の第8期研修生として、羽田空港に到着して以来早くも1年半という研修期間も終りに近づいてきました。

私は1才の時両親、4人兄弟と移住して、約20年たちました。移住した当時はわりぐらんでどすろぼるとあれぐれ町の近くで野菜と花の栽培をしていましたが、5年前イタブアン地区に土地を買求め柑橘を初めましたけれどもういるす病害虫の事で頭をいためていた所が、国際協力事業団の日本への研修を聞いてぜひ参加する様お願いして日本へ勉強にきました。

社会人となり日本の事と言えは父母の話と学校で勉強したくらいでしたが実際日本へ来て見て感じた事は都会が話より以上発展していて、貧富の差がないのに、いかに日本が裕福かという事がわかった。

私の研修希望地である熊本県の果樹試験場は熊本市からバスで約1時間30分ぐらい離れた、松橋町にありました。

日本生まれブラジル育ちの私にとって初めの1カ月ぐらいは日本の生活環境になれるのが精一杯で

した。しかし試験場の先生方、講習生の皆さんに大変親切にいただき寮生活にも早く馴染む事ができました。試験場での生活は毎日朝7時に起床そして食事を済ませ全員で体操をしてから授業に取りかかりました。試験場はいろいろな部に分かれていて、私は常緑部において果樹栽培の勉強をしました。試験場においては、マシン剤、除草剤、いろいろな研究試験を行ったり、接ぎ木、剪定の実習では先生方と共に県内を回りましたが言葉で教えて頂いた剪定技術を実際にやってみるとなかなか思う通りには切る事ができませんでした。また各品種により剪定方法に違いがあり大変参考になりました。試験場で1年間の研修にわたり県外の試験場へ研修視察もありましたが、視察研修について1年間研修した試験場の良い事わるい事も感じる事ができました。試験場での研修期間は、今年3月23日に終了し、4月1日から農家の技術を学ぶため、熊本県河内町の農家中川求さんのお宅にお世話になりました。農家については今年の夏休み中に先生の紹介で手伝いに来ていたので4月からの農家実習期間において自分自身いくらか気楽であったけど夏ばの薬剤や摘果は労働が大変でありました。中川さんの経営はミカン園が4ha 水田が70アール、家族は老夫婦と中川さん夫婦それに子供男の子2人計6人家族で年間収入はみかんが主体で1千300万円ぐらいだそうです。ブラジルの果樹農家と比べて見て日本の農家が有利に金が取れている様子が気になります。しかしブラジルの果樹より日本の果樹の方が手がかかり生産費も多くかかります。やはり1年間の試験場での研修の結果基本的な技術や経営的な事も農家に入ってあまりこまる事はなかった。又、毎日の作業には中川さん夫婦指導もありましたが1年間試験場で学んだおかげで薬剤散布の計算や剪定、摘果、接ぎ木も自分が主体でやれる様になりました。又、河内町において果樹農家の後継者の会で講座生研修会という若い青年の会がありますが私もその会に入れてもらい、1週間勉強会にも出席し河内の若い後継者の人達と色々勉強をしました。又、県外研修では静岡県三ヶ日町で十日間の農家研修へ参加し日本のミカン産地の産地間競争の激しさを知りました。帰りに大阪で市場研修をしました。市場で品物の多いのに驚きました。又、みかんが競られる所に行ったが、やっぱりブラジルの販売の仕方とは大分違う事が分かりました。又、ブラジルも日本も販売のパターンで生産者市場、仲買小売の経過で消費者の口に入る時は生産者の手取りの3倍ぐらいの価額で買わされている事が分かりました。この実習では大変勉強になりこの旅費について事業団、および河内町役場、農協等の御援助でつばな研修が出来た事を感謝しています。これからブラジルへ帰って、日本で学んだ技術を生かして新しいブラジル農業の道をきり開いて頑張ろうと考えています。

1年半の研修期間を終えて、国際協力事業団を初め試験場の先生の皆さん、受入農家中川求さんの家族、河内町役場、農協の職員、講座生研修の皆さんこれら多くの人々の御協力・御指導によって果樹に関する基本的な技術を身につける事が出来た事を心から感謝しお礼を申し上げます。

1年半本当にありがとうございました。

## 「技術研修を終えて」

岩 崎 正 基

日本へ来てもうはや一年半の歳月が過ぎ去ろうとしている。  
私は、岡山県農業試験場、農業大学校へと技術研修に来たのです。  
ここ、岡山県立農業試験場は田舎に有りとても静かな所で夜は虫の音や蛙の鳴く音も聞こえ夜はオーケストラが鳴り響き日本での最後の秋夜がふけていくのです。  
岡山県で有名な桃、水蜜桃、白桃等を始めいろんな果実栽培の有り方、方法等の実態、管理等を学ぶ事にしたのです。  
昨年、私が当試験場へ着いた時には、もうすでに桃の花は咲き始めていて来て間もなく桃の開花調査等をして品種特性等を知り桃の多くの品種を見分ける事が出来るようになりました。  
中には花粉の無い品種等もあり人工授粉を必要とし、結実確保の為、かかせない作業の一つです。  
それには、他の品種で花粉の有る苗を取りその中の「やく」だけを取り除き暖い室内で開やくし、花粉だけを取り出し十分の一にうすめて人工授粉を行なうのです。  
花が咲くと共に人工授粉の作業が始まり、春の楽しい晴れた日に花見でにぎやかになります。  
授粉が終わり受精した花は早く散り実となり肥大していくにつれ蜜分の競合がおきないように摘果し、大きな良い果実を取るような作業が行なわれてくる。  
摘果等の作業はかなりの労力がいる省略的に行なう方法等を調べたのでは、石灰硫合剤の30~40倍位を散布し良い効果を得る事が出来薬剤による摘果で作業も楽になり又病虫害防除にもなるし二つ良い事、栽培面積の大きい国では利用効果が多いのではないのでしょうか。  
良い果実を収穫するには、袋掛けが必要で無袋の場合には薬剤散布回数も多くなり良い果実がとれない。薬剤散布するのに注意する必要がある。これには新しい方法を取り入れスプリンクラー方式で散布しよい成績を得る事が出来た。  
現在のように農薬問題が多くなれば使用基準を守るようにしなければならぬ。  
その為病虫害の生態を知り摘果防除を行ない薬剤使用を少なくするよう勉強したのです。  
7、8、9と桃、ブドウ、梨の収穫が始まり、日本の果実を知る事が出来、又調査方法等を学び果実の熟度を知る事が出来、収穫ポイントがつかめるようになる。  
今まで知らなかったたくさんの果実の品種を知る事が出来又食べて味わう事も出来た。梨、桃、ブドウに付き各地いろんな産地に研修見学旅行で行きいろんな所を見る事が出来、新しい栽培方法や古くから使われていた方法を学ぶ事が出来、楽しく又良い勉強が出来た旅行となりました。  
今回こうして事業団の技術研修生として日本へ来て、今まで一度も体験した事のない、親のもとを

はなれ1人ぐらし、こんな時始めて親のありがたさが身にしみるほどわかりました。

二度とこないチャンスで母国日本で学び、楽しい事や苦しい事いろいろ経験し、青春の一時の良い思い出となりました。

岡山県農業試験場及び農業大学校の先生方やいろいろと世話になった皆様方に感謝する気持ちでいっぱいです。

こうして1年半、長くて短い研修期間を終え帰国し今まで学んだ技術等を気候、風土のちがう大地でいかして行きたいと思っています。

## 「日 本 の 印 象」

今回の国際協力事業団の移住者子弟技術研修生として合格し母国日本を訪れる事が出来、勉強出来る事を大変光栄に思っています。

なおまたこうして、今から農業技術を学ぶ事が出来るようになったのも皆様方の協力があった事又、日本へ来るために必要な手続きに協力して下さった方々に心から感謝しております。

不安と希望を胸にだいて日本羽田国際空港へ着き日本国土をふむ事になりました。おさないころ海外へ移住していったため、見る所行く所が私にとってはまったく未知な所ばかりなので、日本へ帰って来たという感じはあまりしませんでした。

岡山県立農業試験場は、思っていたよりも広々としてゆったりした感じの所なので安心しました。ここで今から私は、出来るだけ、たくさんの技術を学び、いろんなものを見てかんさつしたいと、一生懸命にがんばっていきたいと思っています。

## 「技術研修を終えて」

中 島 義 明

私は、昨年の4月に国際協力事業団の第8回技術研修生として神奈川県海老名市にある神奈川県立農業大学校に農業機械を勉強しようと4月7日に入校しました。

思えば、月日のたつのは早いもので、あれから、18ヶ月間というかぎられた研修期間が終了しようとしている。

私が農業機械を勉強しようと思った動機は、つぎのようなことです。私たち兄弟は、アマンバイでコーヒー園を経営していましたが、まい年冷害がひどく思ひようにコーヒーもとれなくなり農業をあきらめようと思っていましたが、やはり私は農業が好きだし、また、農業しか知らないのです。そこで考えたのですが、これからは、あまり人夫など使わない機械化農業をやろうと思ったのですが、機械の勉強をしようと思っていたところ、事業団の日本での技術研修生を募集していたのでさっそく応募したところ、運よく日本研修がじつげんしたしだいです。

私が、1年間農業大学校で研修したことは、つぎのようなことです。ディーゼルエンジンの分解整備、各種測定機での測定のしかた、電気溶接、ガス溶接の基礎実習、トラクター作業基礎知識など、ブルドーザ、バケットなどの大型建設機械操作実習と数多くの機械を勉強できたことは、3人の先生に親切なご指導をしていただいたおかげです。

この大学校も54年の3月いっぱい修了し、のこりの6ヶ月を埼玉県上尾市にある東急機械株式会社で研修しました。

この会社は、おもに外国製の農機具をあつかっている会社で、機種は私たちも知っているマッセイ、ファガソン・トラクターです。トラクターの他に、コンバイン、ペーラーなどいろんな農機具をあつかっています。

入社して1ヶ月くらいは、新入社員といっしょに講義や講習をうけた。講習をうけて感じたことは、いままでの学生とはちがひ皆真剣に講義を聞き、また、講習のときは積極的に質問をしていたのが印象的でした。

2ヶ月目からは、念願のエンジン整備技術、トラクター組み立てなどをやり、主としてエンジン・オーバホール、ミッション・油圧ポンプのオーバホールを専門に勉強しました。

又、7月の中旬からやく1ヶ月間の北海道美幌支店でのコンバインの納入指導にいったのは大変勉強になった。

納入指導といっても、私自身コンバインはあまりわからないので、現地の人といっしょに、なやみ苦しんだこともあった。又、なんだか夜中に起され修理にいったことも、いま、思えば楽しい思い出

になりました。

こうして私の研修を、日となり、影となり、励まし、又、指導していただいた、学校の先生がた、及び、東急機械の社員の方がたには、心からお礼申し上げます。

又、このよき機会を与えて下さった国際協力事業団の方々には心からお礼申し上げます。

## 「合同研修会に参加して」

昭和53年11月13日から3日間の合同研修に参加して、8ヶ月ぶりにあり、みんなは、べつ人のようにたくましく、それに日本語のじょうずになったのには、おどろいた。日本に来て数日間生活を共にしていただけなのに、まるで、なん年も一緒に過ごした、友達みたいに懐かしさでいっぱいでした。

3日間の合同研修は僕なりに、一生懸命に見学しました。実際に見学した所は期待していた以上にすごく、感動した。

1日目は午後5時に、岡たみ旅館集合。僕が着いたときには、ほとんどの人が着いていて、それも遠い北海道や、沖縄の人が早く着いているのにはびっくりした。夕食後、毎日の生活や研修のことを話したり雑談して、楽しい夜を過ごした。2日目朝9時に旅館を出て、バスで奈良へむかう途中紅葉がすばらしいのには感動した。さいしょの目的地、宇治平等院にいったのが、9時半ごろ、ここでは阿弥陀如来像という(国宝)があり、この像は、1053年につくられ、像の高さは約3米もあるそうです。平等院を40分くらい見学して、つぎの目的地、法隆寺には、11時に着いた。法隆寺は世界最古の木造建築群として知られているそうです。日本の木造建築は、合掌造といって、すばらしい建築技術です。世界でもこれほど、木造建築技術がすすんでいる国はないだろうと思う。

昼食後、薬師寺という寺に行く。薬師寺にある三重塔は、六重塔に見えるが、これは各階に裳階をつけてあるからだそうです。薬師寺を40分ほど見学して、唐招提寺という寺にいきました。この寺は、べつにこれといって見る所はなかったが、千手観音というのがあり、この観音は日本最古の千手観音で、その実数は、太いひじ42本と小手911本もあるそうです。次の目的地、春日大社には2時40分ごろにつく。春日大社は、藤原氏の氏神として祭られたのが始りとされています。境内には石灯笼が1780基、釣灯笼が1012基あり、節分と中元(8月15日)に点灯され、春日方灯笼の名で知られているそうです。今日最後の目的地は京都西陣綫会館でしたが、さんねんながら時間がなくあきらめました。旅館には、6時半ごろぶじ着きました。夕食後、さすがにつかれたのか体がだるかったが、今夜が京都最後の夜というので、みんなで夜の京都を散歩する。

11月15日今日は合同研修の最終日、9時に旅館を出発、嵐山には9時半に着く。渡月橋から見ると嵐山は紅葉していてすばらしい眺めだった。嵐山をあとにして、平安神宮に10時50分に着く。

ここには、七五三の子供がいっぱいで、かわいい手を合わせて拝んでいる所を見ていると、やはり日本だなとつくづく思った。30分ほど見学して、つぎは二条城に行く。この二条城は、徳川家康が上洛の際の居館として造営させたというすばらしい建物です。二の丸御殿の襖絵は、雄大な松に鷹の図や、可憐な花鳥図など、すばらしい絵が描かれていた。

45分後に、今回の合同研修最後の清水寺に向う。15分後に目的地に着き、ここで昼食をとり、それから清水寺を見学した。

この寺で有名なのが音羽ノ滝で、石の樋から三筋の水が落ちている。この水を飲むと知恵がさずかるそうです。

これで、3日間の合同研修会がふじ終り、3日間いっしょにすごした、同期生や事業団の方々とかれることになる。

またこの様な機会を作って下さる事をお願いして、僕の合同研修会の感想文を終わります。

## 「合同研修会に参加して」

松 岡 健

私達研修生は京都と奈良へ二泊三日にわたって合同研修会へ参加いたしました。

京都といわれても、私達にはなにもわからないので、出発前先生や講習所におられる同期生の人達にいろいろと聞きました。そうしますと、京都といえば昔の都といわれて有名な所で元、天皇陛下がおられた所だと、こういう説明を受けなお楽しみとなりました。

そして京都の旅は新幹線で行くことになりました。私達は、地上を走る物で新幹線ほど速度で走る物に乗った事のないことから、その新幹線に乗るのも一つの楽しみとなり、その日から毎日毎日その日のくるのを待つて居ました。そして楽しみに待つて居たその日がやって来ました。

私達は、11月13日の午前11時39分発の新幹線に乗り、福岡県を後にして京都へと旅しました。その楽しみにして居た新幹線に乗る事が出来、とってもいい思い出になりました。

出発後2時間が過ぎ、3時間が過ぎ、そして4時間が過ぎた後、目的地の京都へ到着しました。到着したのは16時20分頃でした。そして宿泊する岡たみ旅館へ着きますと研修生、全員の皆さんに迎えられ、その夜は全員で懐かしい話をしながら楽しく過ごしました、そして次の朝9時にバスで京都を後にして奈良へと向かいました。

奈良は京都の庭と絵画に対して、奈良の古寺巡礼は古仏像が中心だといわれているそうです。国費を投下して寺が造られた飛鳥から天平にかけて、いきいきとした美しい仏教美術が生み出されたそうです。それらは今でも、奈良の寺々に千数百年を生き続け、われわれの目の前にもあるといわれました。

こういった説明を受けながら奈良市内を通過しました。そしてまもなく目的地の東大寺へ到着しました。そこのお役人さんの説明によりますと、あの建物や中に置いてある物は、もう数百年も昔に作られたそのものの形ですと言われ、私は驚きました。まさか数百年も昔に作られた物がそのものの形をしているとは思いませんでした。

往昔の境域を今でもよく残して居るそうで、多くの美しい国宝建築群とともに、天平の古仏像を多数収蔵していました。

奈良公園へ行きますと、興福寺から春日大社に至る一帯、面積は約5.3km<sup>2</sup>もの広さだそうです。全体は野外博物館と整備され、すがすがしい木立そしてロマンチックな木立のトンネルで、ささやきの小径と呼ばれているそうです。そこには鹿が広大な園内を自由に遊び回って居ました。そこには約千頭もの鹿が居るそうです。私がそこで驚いたのは、千頭もの鹿が居ながら増えもしなければ減りもしないそうです。説明によりますと子供が生まれれば事故にあったり、銃でうたれたりするので増えも



しなければ減りもしないそうです。

そして私達の研修会もいよいよ最後の日となりました。その日は朝早く嵐山へと向いました。そして嵐山へ到着しますと、そこには長い渡月という橋がありました。その渡月橋からひとまたぎする中之島園と天龍寺裏の亀山公園をいうそうです。そこには子供達が七才になると健康な子に成長するようお参りに行かれるそうです。私達もいつまでも健康であるようそして交通事故などにあわないようにとお参りしてきました。その掃り渡月橋を渡る時は、渡りきってしまふまで後ろへ振り向いてはいけないといわれました。それはお参りした神が逃げるからだそうです。

あとは銀閣寺、清水寺、三十三間堂などに行きましたが、建物などは奈良の方へ行かれた時に見学したのであまり思いつくようなことはあまりなかったのですが、ただ違ったのは建物が美しく大きなと思いました。

そして京都駅で皆な解散して、私達は京都を後にして福岡へと帰ってきました。

## 「日本 の 印象」

僕が日本に着いたのが4月の2日です。着いた時一番かんじたのは人のおおいのと車がおおいのです。

着いてすぐ横浜移住センターに行きました。そこで3日間共同生活をしました。そこでは朝は8時でしたのであまり朝早いとは思いませんでした。

4月4日に東京の国際協力事業団に皆であいさつに行きました。その行きに電車の中でも印象をうけました。日本は狭いと言うのにどこかただけの人がくるのだろうかと言車の中は人でいっぱいなのでびっくりしました。それからバス、タクシーなどがいっぱい有るからこれほどべんりがいいのはびっくりしました。

福岡講習所では朝早いから初めつらくてたまらなかつたけどもうだいがなれてなんともなくなりました。日本の人は皆しんせつでほんとうにうれしくてたまりません。

5月15日から17日の3日間で英彦青年の家に研修に行きました。その行く時バスで行ったのです。バスから外を見ると高い崖そして高い山がいっぱいありました。

英彦青年の家に行って山登りをしました。パラグアイでは山登りはできないので初めてでその時にびっくりしたのは登る角度があまりきついのびびっくりしました。日本へきてびっくりすることはばかりです。

## 「技術研修を終えて」

石原由起

去年の3月家族に見送られて夢と希望で胸をふくらませて日本へと旅立ってきました。

緑に囲まれた静かな環境にある聖ヨゼフ病院准看護学院で看護学生として入学式を向かえました。

初めて足を踏み入れた寮の部屋はたたみの匂いがしました。私は「ああ今日から自分の選んだ道の第一歩が始まるんだ」と強く感じました。

家族と遠くはなれて送る寮生活、授業、不安なことばかりでした。

授業は思ったよりもずっと難しく、特に漢字の書き読みに困りました。そこで、わからない字はノートにひらがなで書いておいて、あとで調べるようにしました。教科書、辞書、学院にある参考書などを利用しました。そのうち段々と授業内容も理解できるようになり字もある程度書き読みが出来るようになって、自分自身に自信のようなものが出てくるように思いました。それでもスランプに陥ったことがよくありました。そんな時にはなんでも話せる友達を持つことが必要だと思いました。私はどんなにか友達に助けられたことか数知れません。この共同生活の中で、同じものを目指す者同志として、やはり協力し、お互いに助け合っていくことが一番大切だという事を感じました。

ようやく、授業にも寮での共同生活にも慣れ落ちついたところで、待ちに待った戴帽式を迎えることが出来ました。キャンドルに写し出された白衣の姿に感動しながら唱えたナイチンゲール誓詞も、まるで昨日のことのような気がします。初めて白衣とキャップを身につけた自分の姿を見てはずかしい、おかしな気持ちでした。そしてこの時、何よりも「責任感」というものを感じました。

戴帽式を終えたら、看護婦への出発の第一歩として院内実習がはじまりました。中学時代とは異なり、他から与えられるというのではなく授業で学び、考えた看護のあり方、本当の看護などを再認識しさらに深く追求していくもので、どんな小さな看護行為でも理論的裏づけと人間性をもっているということ、看護は実践の科学であるということをお教わりました。

私は最初外科病棟に実習に行きました。そこで指導者に「〇〇さんの皮膚の状態を観察してきなさい」といわれ、自分では一生けんめいその患者さんの皮膚を観察しようと目で追っていたのです。そんなとき、「何ボサーッとつつ立っているのですか」という指導者の声にハッとしました。

観察だけではダメなことにはじめて気がつきました。

看護婦から、患者のニードをつかんで把握しコミュニケーションのもち方をくふうして下さい——といわれた言葉は今でも忘れません。

頭ではわかっているでも実際に行なうとその難しさをつくづく感じさせられます。学校で講義を受けているときといざ患者を目の前にしての看護はあまりにもちがいます。

いろいろな患者さんと接しているうちに、なんどもなんども壁にぶつかりました。その度「看護」っていったい何んだらう？と考えさせられました。それでも患者さんの口から「ありがとう」という言葉をきいたとき感動せずにはいられなくなるんです。「私は看護の道を選んで良かった」と思いました。その一言は私に勇気と希望をとりもどしてくれました。

本当に、その患者のことを考え手をさしのべたときに、快よく受けてもらえたときの気持ちは言葉には表せない喜びがあります。

私達の仕事の対象は人間なのです。だから私達もまた看護婦である前にどのような人間であるか考えると共に看護するための知識を得なければならぬと思います。そのためには、やはり毎日の学習をおこたらないことだと思います。またからだで覚えなくてはならないこともたくさんあります。

1年半の技術研修を終えるわけですが、私はまだまだ看護の道を歩きはじめたところです。看護婦というこんなすばらしい道を歩いていくことの可能性にかけてパラグアイへ帰ってがんばりたいと思います！

研修期間中、見守って下さいました国際協力事業団職員の皆様、そして聖ヨゼフ病院の皆様のご協力、御指導に心からあつくお礼を申し上げます。

## 「全国農村青少年技術交換大会に参加して」

7月24日から27日迄3泊4日青森県にて行なわれた第19回全国農村青少年技術交換大会は、農業経営や農家生活の改善について研究実践している農村青少年の代表が一堂に会し日ごろ体験した知識や技術を相互に交換するとともに友情を深めあい農業に自信と希望をもった新しい担い手の育成に資することを目的に開催されました。

あいにく天気はくずれ、まるで冬のような寒さでしたが、大会は予想以上にすばらしいものでした。そして緑いっばいに包まれた青森の景色はとても心を和やかにしてくれました。

ここに集った約千人もの参加者ひとりひとりを知ることはできませんでしたが、みんな農業という一つのものに夢と希望を持ち、胸をふくらませている若者達ばかりでした。その心は私の胸にも深く伝わってきて、失いかけていた勇気と意欲をとりもどしてくれました。

私はこの大会に参加し、日本の農業の知識を少しでも得られたと同時にこの美しい自然の中で数多くの人と知り会うことができたことは最高の収穫だと思います。

私の日本における研修も後6ヶ月位ですが悔いの残らぬよう有意義に日々を過ごしていきたいと思えます。日本で吸収したものは一生の宝として大切にします。

このような機会を与えて下さった方々に感謝します。ありがとうございました。

## 「全国農村青少年技術交換大会に参加して」

山 田 陽 二

7月24日、午前10時、青森駅に着く。研修生の集合時間は、午後5時で、東京より北に来るのは始めてなので、市内を見学する。みやげ物屋のつがるぬりのけた、素朴な温泉こけし、など東北独特の物がみられる。駅近くの市場に立寄る。そこには、青森の特産物があり、海産物の豊富なにはおどろいた。午後5時、自治会館別館に、研修生集合する。3ヶ月ぶりの出合に、夜おそくまで話して花が咲き、青函連絡船の汽笛を聞きながら寝る。25日大会開催地田代平高原に集合する。霧雨の中、ブラザル、デンマーク、ドイツ、ポリビア、オランダ、パラグアイ、アメリカ、アルゼンチン、日本全国からの参加者約千百名の中で盛大に開会式が始まる。来賓の中で、ほとんどの人が、日本の厳しい農業情勢の中で、これからの経営者に対する期待を言っておられた。専業農家の少ない日本で米、温州みかんの過剰生産、そして、エネルギー問題、これは日本だけでなく、自分の住んでいるアルゼンチンにおいても同じ事で、これからの農業は、適地適作で、新しい技術、品種、常に技術的に高度な物を持っていなければ経営は、なり立たないと思う。そして、自分たちは日本の代表として海外において、先覚者であるべきと強く感じた。そして全国の青年たちの農業に対する熱心な姿勢は、これから良きライバルとして、励みになると思った。ときどき、霧が晴れて、雄大な八甲田山、それを取り囲む地形は、自分の住むミシオネス州に良く似ていた。大会最後の夜、巨大なキャンプファイヤーを囲みおたおたり、ラッセラ・ラッセラー・ラッラッセーのかけごえに若者のエネルギーがもえる。農業のすばらしさ、又、多くの友人を得ることが出来た。バス・スクールでは、スケールの大きい青森の自然、神秘的な十和田湖の美しさに、心をうたれながら青森駅で解散した。この3日間自分にとってよき思い出、よき友人を得る事が出来、この大会に参加させて頂いた国際協力事業団に感謝しております。

## 「日本 の 印 象」

アルゼンチンを発ったのが3月31日、出発の前、飛行機の中で、果たして自分の求めている物が日本にあるだろうか、この1年が無駄になるのでは、期待と不安のうちに、4月2日羽田に着く。小雨で膚寒い中を、暗い気持で移住センターに入る。4月3日第7回生との懇談会の席で7回生の言葉で、「とにかく、わからない事は聞け、話せ、友人を沢山作れ、そして自分の目的を達成する事」が強く心に残りました。僕には15年ぶりの日本ですが、公害の国日本というイメージを持っていたが、

東京の空の美しかったのには意外で、うれしく思いました。4月6日三重県津市の赤塚植物園に入り研修を始める。ここでは、観葉植物、シクナゲ、ラン、など栽培と販売をしております。日本の進んだ栽培技術、進んだ園芸施設資材、優れた経営、なにを見ても目を見張る物ばかりで、これをどのようにアルゼンチンで生かすかは、今後の研修課題です。そしてこの研修生としての機会を与えられた事を感謝しております。

## 「技術研修を終えて」

近 藤 勇

早いもので昨年のも、僕が第8回移住者子弟研修生の1人として父母の故郷へ来て以来、もはや2度目の夏も過ぎ、1年半の研修もあと数日残るのみとなりました。

いまこうして振り返ってみると10代最後と20代初めの年を過ごしたこの期間は本当にすばらしい青春のひとつとなりました。

実をいうと僕は研修当初には、同級生は全員大学へと進んだのに自分だけこのような研修をやるのはなんだか皆から取残されたような気がしたものです。しかし2ヶ月、3ヶ月と研修を進めてゆくうちに、やはり大学に進まずよかった。この1年半のうちに精いっぱいやっていけばなんとか立派な成果をあげられるのではないかという気がしたのです。

そして1年半が終りに近づいたいま、振り返ってみると今回の研修はかなり良い結果が出たように思えます。

僕は畜産、特に酪農の研修を希望しましたので北海道の十勝種畜牧場草地畜産研修所に入所しました。当牧場は国立の種畜牧場でも一番広大な面積(1,200 ha)を持つ大規模な牧場です。南は鹿児島、北は道内より畜産を志す12名の若者が入所しました。なにせ全員高校を卒業したばかりで人生経験の少ない者の集まりでしたので、最初の頃は全員バラバラの感じでしたが、牧場の職員や先生方の良き御指道のお陰で3ヶ月もすると12名が一丸となって実習や講義に励むようになりました。

当研修所は実習7と講義3のカリキュラムが組まれており、講義は週に3~4日朝夕の搾乳の合間にありました。講師の方々がまたすばらしく、帯広畜産大学の教授そして日本の畜産界の先をゆく方々で、育種学、解剖学、衛生、牛の飼養管理、審査などの家畜関係のもの他に農業簿記、土壌学、草地管理、農業機械など今後の考える農業に必要な知識をていねいに教えて下さいました。

実習は牧場の職員達に混じって行ないましたが、最初は仕事の要領が解らずとまどうばかりでした。なにが間違えたことをやっと思い南米ではそうやるのだから日本ではこうやるのだなどと怒られた時などは本当に情けない気持ちでしたが、2カ月もするとなんとか要領が解りだし実習もうまく進みはじめました。

毎月一回の場外見学や夏の農家実習はさらに日本の農業のすばらしさを見せてもらうことができました。

昨年度は暖冬であったとはいえ、雪の経験のなかった僕にとって冬期間の実習はつらいものでした。吹雪でマイナス15~16度の真夜中に1kmも離れた牛舎まで分娩の様子を見に行った時のまつ毛も凍るような寒さ、手指の痛さは一生忘れ得ないものとなるでしょう。

そうこうしているうちに1年の研修も終り、この間にガス溶接、2級農業機械師そして僕の最大の目的であった家畜人工受精師など各種の資格、免許を取ることができました。

後半の研修は暖かいところの畜産をみたいということでここ阿蘇の畜産高等研修所で行なっております。当研修所は十勝と同様のカリキュラムですが実習は我々研修生に仕事をまかせてくれるので本当に良い勉強になります。

今年は牛とのつき合いもしながら多くの人達とであり、友達になれることができました。

全国農村青少年技術交換大会に参加させてもらった時、夏休みに旅行した際に泊まり歩いたユースホテルで、そして当研修所の先生方のほとんどが自分の家へ連れていて下さったことによるものです。

こうして多くの人達の暖かい御支援と御協力により、このすばらしい研修も今日で終了できることになりましたが、この1年半は僕にとってまったく悔いのないものとなりました。

当研修によってなんとか畜産技術の基礎をつかむことができ、畜産人のはしくれとして歩きはじめようとしている僕としては、帰国してからも日本で知りあった人達との交流を大切にし、移住地の農業の諸先輩の豊富な経験による御指導を受けながら日本で得た知識を精いっぱい活用してりっぱな牛屋として、生きてゆきたいと思います。

最後になりましたが、親切に御指導下さいました研修先の方々、ならびにこの様な機会を与えて下さった国際協力事業団の皆様方に今後も末長く良き御指導を願いながら、心から御礼申し上げます。

本当にありがとうございました!!

## 「合同研修会に参加して」

待ちに待った合同研修会が京都で実施されることに決定したという知らせを牧場の場長が手渡してくれたのは11月2日のことでした。このような研修会は毎回、日本へ来て半年ぐらい経った頃に行なわれるということを聞いていたのに10月が終っても何の連絡もなかったので、半ばあきらめかけていたところへのこの知らせに僕はさっそく先生の所へ行って休みの許可を取り、飛行機の手配をしてもらったのです。

そして12日、汽車で札幌まで出てその晩は支部の高橋さんの家に泊めてもらい13日千歳から苫小牧で研修中の高野さんと一緒に大阪へ飛んだのです。

出発の一週間前とはにかくみんなに会うのが待ちどおしくて来年二月予定になっている人工受精師の受験勉強もそっちのけで毎晩、旅費や小遣いの計算をしたり、札幌までの汽車や大阪からの汽車をさがして時刻表とにらめっこをしていました。大阪—京都間のありったけの汽車や電車の時刻表も

コピーを取ったりしました。けっきょくは空港を出たらすぐ目に入った京都駅行のバスに飛びのってしまったのですが。

旅館に泊いたのは三時すぎで先に来ていたのは熊本にいる田中君と道田君そして静岡で研修している高橋君の3人だけでした。

その後、僕らのあとに続いてぞくぞくとやってきて集合時間の5時までにはみんなそろっていました。半年ぶりにあった仲間たちは日本に来る途中と横浜で二日間一緒だっただけでもかかわらず顔と名前はすぐに一致し、日本の印象や生活に慣れるまでに困ったことや失敗談、生活状況などをなつかしいポルトガル語やスペイン語を思ひぞんぶんに使って、夕食後もちょっと外に出かけ、またすぐに旅館の部屋へ戻って夜おそくまでつきることなく話しあったのです。

次の日はバスに乗ってガイドさんの説明を聞きながら、道路両わきに見えるみごとに紅葉や茶畑の中を途中宇治平等院を見たあと奈良へ行き、法隆寺、薬師寺、唐招提寺そして春日大社を回ってきたのです。予定の西陣織会館が時間がなく行けなかったのです。

このような日本の古都へ来て古い寺院や町なみを見ていると日本という国の歴史の長さや建物が狂んとうに木だけで造られているのにはただただ感心するばかりでした。帰りのバスの中ではガイドさんにのせられて全員一人ずつ歌わされたりして楽しく1日目が終わったのです。2日目は京都の名所めぐりで、まず嵐山へ行き渡月橋から見える霞がかかった山々の紅葉や川の流れの美しさにみとれ、平安神宮へ行き七五三の子供と写真を取り、二条城のうぐいす張りろう下を歩き、清水寺で昼食、そこを見学した後、PM2時半に次に会える日を楽しみに京都駅で解散したのです。

その夜は高野さんと大阪のホテルに泊り次の朝、飛行機で札幌まで行きそこからまた帯広まで飛んで、11人の仲間がいる研修所へ帰ってきたのです。

本当にあわただしい旅行でしたが、日本の代表的な古都、京都、奈良を見物できたことはたいへん良い思い出となり、研修へのやる気が出てきたことはたしかです。

・



## 「技術研修を終えて」

山 口 政 雄

移住地発展のため、自分のためにこの研修期間をせいっぱい頑張って来るんだと、心に誓い、昨年4月まだ肌寒い春の始めに帰国して早くも1年半が過ぎ去ろうとしている。この1年半の研修期間は、南米では味わう事の出来ない貴重な研修だった。滞在期間もあとわずかとなった今、お世話になった人達への感謝の気持ちでいっぱいです。

私の日本での研修は、長崎高等職業訓練校で始まった。ここでは午前中学科、午後実習と実にのぞましい研修であった。又、先生方も親身になって教えてくれた。しかし、日本語の教育をまんぞくに受けていない私には教科書に出て来る漢字や専門用語が解らず、ずい分とクラスの皆さんに迷惑かけたものだ。実習の方は、ヤスリかけ、ハンマ振りから始まり、3～4ヶ月は機械にさわれず、ずい分と長い期間に感じたものだ。

それに旋盤の数が限られていたので、旋盤と手仕上げの2組に分れて実習を行なった。旋盤専攻で行なわれた実習だったが、フライス盤、セーパー、研削盤、ボール盤と他の工作機械について研修が出来た事は、以外な収穫だったといえよう。

訓練校生活も中盤に入り、日本の生活にも、なれてきたことから、テレビを見て過ごす時間を利用して夜間溶接に通い、アーク溶接を始め、アセチレン溶接、スポット溶接、その他の溶接について研修した。

このようにして、訓練校での1年間の研修を無事終える事が出来た。

後期の半年は、訓練校でつんだ基礎をもとに実際に現場に入り研修しようと思い、訓練校の先生方のお世話で、三菱長崎機工で研修を行なった。

当初では、主に船舶の部品を作っており、工作機械も、想像以上の大型であった。

最初の1ヶ月は、大型旋盤の見習を行なったが、これでは研修にならないと思い、作業長さんにしたので、小盤の仕事をもらう事が出来、実技研修を行なった。又旋盤作業のあい間に、ミーリング盤、ボーリング盤等、他の工作機械についても研修出来た。

ここでの研修は、よりいっそう旋盤に関する知識を広めてくれた。

こうして、私の1年半の技術研修は終りを告げようとしている。実にすばらしく、又充実した1年半の研修だったと思う。又何もが良き思い出として心に残る事であろう。

この研修で得た貴重な体験を十二分に生し、移住地発展のため、精一杯頑張るつもりです。

## 「日本 の 印象」

私は、ポリビア国に移住してから17年後に帰国した事になりますが、当時、私は3才でしたので日本の事はまったく覚えていませんでした。

人口が世界一密集している東京のイメージは、車と排気ガス、ひどい公害、これらは、私がポリビア国に滞在中での東京に対する予備知識でした。ところが空港を出ておどろきました。私の想像とずいぶんちがっていたからです。雨のせいもあってか車はあまり混雑しないでよく整備されているし、道路も非常に整っていることです。

日本に来て一番印象的だったのは、翌日、横浜から東京に向かう時、駅での事でした。秒単位で速発に走る電車、それぞれが1分のくるいもなく、正確に発車していることです。横浜駅では昨日とは違って人の多い事にびっくりしました。駅、電車内の混雑、猛ラッシュを目の前にして「やっぱりここは日本だなあ。」って感じました。

研修先の長崎高等職業訓練校に来てはじめての日曜日長崎平和公園に行った時、みごとに咲き乱れた桜を見て、これがうわさに聞く桜か。ただ見事だの一言でした。

以上のような事が、私が日本に着いてうけた印象です。

## 「技術研修を終えて」

具志堅 進

僕は生れも育ちも南アメリカにある国ボリビアです。

ボリビアの沖縄移住地で生れ育った僕には日本語がわかりませんでしたといってもいいほどでした。

家族との会話はおもにスペイン語で日本語はちよっとだけ開けるくらいでした。もちろん僕の両親は日本人です。

日本のことではあまり知識がなかった僕にしては、この一年半の日本での生活は様々な経験でした。

まず最初は日本語をなんとか話せるトレーニングでそして次は漢字の読み書きでした。

今は教科書にある漢字はほとんど読めるようになりましたが書くことではいまだに問題です。

それにしても時がたつにつれて「僕は日本語がわかりません」の言葉が通用しなくなりけんめいに日本語の勉強にはげみました。

僕の研修科目は農業機械です。僕らの移住地では、農業全ぶ機械化されて自然にもめぐまれています。がちよっとの技術がふそくしていると思います。

僕は、最初の一年間は、沖縄にある具志川専修職業訓練校で建設機械でもにガソリンエンジンとディーゼルの研修を受けました。学科と実地がやく半々でした。実地の方ではあまり問題はなかったと思いますが学科でひじょうに理解にこまりましたが先生方々の親切がすこくたすかりました。

この訓練校を卒業して一年後にはこの経験の上でガソリンエンジンとディーゼルの資格があります。電気とガス溶接それに重機かんけいのオペレーターの資格がとれました。

このように一年間おなじ8回生移住研修生とアパートかかちて自炊生活をしました。

この半の半年は横浜高等訓練校の機械科で研修を受けました。ここでも前と同じく様々な体験にぶつかりました。やっぱり漢字言葉説明理解にぶつかりました。

横浜訓練校では、おもに旋盤加工とフライス盤加工を学びました。学科では、次の科目を勉強をしました。機械工学概論、生産工学、製図仕上げ作業法、機械測定法などです。

旋盤、フライス盤の加工は実にふくざつなもので $\frac{1}{100}$ ミリのくるいもゆるされない精密な仕上がをひつようとすものばかりでした。

一度、二度の失はいはよくありましたが、ついに自分の作った製品を精密に仕上げた時の喜びなんともいえませんでした。

こうしているうちにもう早や一年半の歳月がすぎてしましますが、どのような結果がでたのかは自分にはわかりませんがとにかく移住地へ帰って良い効果がでるように心がけたいと思っています。

この一年半効果的な勉強良き体験をし社会勉強ができてたことを国際協力事業団の皆様方訓練校の

先生方にあつく心からお礼申し上げます。

## 「合同研修会に参加して」

ぼくには京都とか奈良とか言う所はまったくといっていいほどしりませんでした。

なにしろ、ぼくはボリビア生まれの日系二世であるせいかもしれません。

ボリビアではぼくは日本という国は、ちょうどウラグワイにあるちいさな島で工業がどこも進んだ国だとしかしりませんでした。

ボリビアという国はちっとおくれた国だけと多くの石油があって、でっかい農産物があって鉱産物がある。

そういう所で生まれたぼくは日本へ研修生として来たからには今からでももっと日本のことを理解したいと思っていました。

このごろ国際協力事業団沖縄支部からこの合同研修会がありましたのでちょうどよかったと思い自分のふるさとへかえるようなきもちでのりました。

まずさいしょに京都、京都とみじかくいってみればむかしの日本の首都またはふるさとと聞いています。

それをしゃんでではなく現実に自分の目でみると様々な魅力があってあれもこれもみんなすばらしいことばかりだった。

そこにはアジア系の姿がみられ、これが日本だと感じられた。

奈良も京都もだいたいおなじように見えたがでも奈良の方はしずかそうでタイムマシンにでも乗ってむかしにもどったように思えた。あの古代のたても、また木で製作されたぶつぞうがなんとなくそのようにおもえた。

これをみんな北米、中米、南アメリカにあるマヤ、アステカ、インカがいたようにだいたいおなじものじゃないかーと思います。

## 「技術研修を終えて」

仲村安英

日本に着いたのが去年の4月2日で、`早や1年半の歳月がすぎようとしています。1年間の沖縄県立具志川職業訓練校での研修、半年間の大阪での研修、色々と勉強になりました。最初日本に着いたとき羽田空港は雨でした。それから4日間、横浜の海外移住センターで色々な日本の話しを聞き、皆んな研修先きへとむかいました。その時の印象にのころのが、人とエントツが多いのと、それと毎日空にキリがかかっていることでした。

沖縄県を空から見たとき、飛行機は着陸できるかな、と思うぐらい小さかったです。一度着陸してみると空から見たときとはちがって、建物が建ちならび人も多く、飛行場から2時間、自分がすむ家へとむかいました。その間考えました。そんな小さな島で、どこからはいる予算で生活できるのか、それだけ日本政府の力が強いんだろう、としか思えませんでした。

それから2、3日後入学式でテレビでインタビューしたのも生まれて初めて、そのよくじつ新聞にも出るしテレビからも放送されるし、なにかスターになった気もした。入学式以来2ヶ月間電気工事士試験のため、午前8時45分から午後の6時まで問題集を暗記するみたいな感じで勉強し、試験のことが心配であんまり遊ぶ暇もなく、2ヶ月間すごしました。学科試験が終ると実技試験で、練習中電線で手の皮がむけてしまい、`痛くて電線をさわっているのがいやになりました。それでも皆頑張っていました。なぜかといえば、日本国は資格制度があつて通商産業局長で認定されていないと、電気工事士法により電気工事はやってはいけないこともあるし、なにかボリビアからきた私にはバカバカしくも思えるし、電気関係法規を読んでいると、道理にあてはまるとも思えるし、実際日本で働いたことのないこの私には、日本国は生活しにくいところだ、としか思えませんでした。試験が終ってから土、日曜日色々なところへ遊びに出かけました。8月の夏休みに石垣島に行ったとき国際協力事業団の紹介書をもって市役所をたずねて行き、農業試験場を紹介してもらいました。市役所で農水産課長と話していますと、なぜ日本に電気とか機械の研修にきている人が、`農業試験場を見学するのかと聞かれました。それでボリビア国での、`日本人の農業での活躍ぶりを話したら、何か納得した感じになり、1台のジープと案内人をつけてくれました。サトウキビやパイアブルの栽培の方法や、基礎的な説明で色々勉強になりました。夏休みも終り二学期が始まり、実習で電柱昇や屋内配線、色々なことを学びました。とくに電気工事科がやらせてくれた、うでたてふせやマラソン80Km駅伝マラソン大会などでは、いい思い出になるようにと、私をアソカなどにえらんでくれた。学校の門から走ってはいる時、女の子なんかむかえてくれて、なにか皆んなが走った分を、自分1人だけいい思いしたような気もした。

修了式の日タイムカプセルに色々書いてうめたことや、それを10年後ほり出すことを約束したことや、クランプテスターをクラスメートからプレゼントされたことや、1年間でしたけど色々な経験や想いですごしました。4月からの大阪での研修では、沖縄県で学んだことを生かし、太陽鉄工で工場メンテナンスを勤め、いくら本で学んでも実際仕事となるとむつかしいもので、始めのうちほどまどいましたけど最近ではなれました。

今日までの社会的経験や、学んだことを南米と比較してみますと、日本国はほしいものはなんでもあり、生活だけならいい国です。

でも一生かかって家ひとつ建てるのに精一パイなのは、あまり希望がなさすぎるのと、例えばなにが事業するにも、資本金が600万円あるとすると、牧場でいうと牛10トウ買って本人は草をかつたり1日中使われっぱなしである。その金額でボリビア国だとすると、牛200トウを買って本人はなにもしないで、人夫を使って生活できる。色々考えてみるとよいのと悪いのがあってよいのだけを生かし、悪いのはよくするようにしたいのです。ボリビア国はいまからの国です。実力をつけ努力さえすれば会社を経営することもできれば、広い土地を持ち大牧場をできる可能性があるのもたしかです。

研修も終り、後何日間でボリビアに戻りますが、其の間、無事に自分のツトメを終えたことを国際協力事業団、具志川職業訓練校、太陽鉄工の皆さま、色々とお指導下さった方々、深く感謝致します。たいへんありがとうございました。

## 「日本 の 印象」

3月30日サンタクルース市のトロンビーリョ空港をはなれまして3時間後ペルーのリマ空港に着陸しました。飛行機のごとで2夜ペルーのホテルでとまりました。3月31日0時に飛行場にホテルの車でつれていってもらい朝の1時ごろブラジル、アルゼンチン、パラグアイからまた同じ研修生といっしょになって1時半ごろ空港を飛びたち朝の8時ごろロスアンゼルス空港に着陸しロスからアラスカのアンカレッジに、それから6時間後に目的地東京につきました。時間は4月2日の午後4時に。

それから税関の取調べで1時間ぐらいで飛行場をでてきて飛行場まで1時間ぐらいバスをまきました。その日は雨でした。バスが発出し移住センターに向かいながらバスのまどから東京の町をながめながら私がみてかんじたのはどこをみても工場のエントツが立ちならび話しにきいたような工業国だと思いました。

移住センターのほうに4日間おりました。沖縄についたのが4月7日の3時ごろ、着陸するとき飛

行機の上からながめた沖縄はそんなに小さかったので飛行機がおりるとちはあるかなと思いました。  
だから印象といえばこんな小さな島にそれだけの人間がすまれるかなと思っただけです。`

21

## 子弟研修生一覽表



第1回(昭和46年度)

国名	(推せん支部)	氏名	生年月日 年 令	学 歴 (日本) 現 地	本籍地または 父親出身地
ドミニ カ	(サントドミンゴ) コンスタンサ	村田千秋	昭和 23.3.14 23才	(小3中退) 中 卒	鹿児島県川内市
プ	(ベレン) 第2トメアス	武藤義博	17.4.7 29才	(小 卒) 中 卒	福島県会津若松市
ラ	(レシーフェ) クビチェック	岡本耕次	25.6.14 21才	(小4中退) 高 卒	愛媛県 東宇和郡城内町
ジ	(リオデジャネイロ) フンシャル	池田秀広	27.7.5 19才	(なし) 2世 中 卒	広島県深安郡市村
ル	(サンパウロ) グァタバラ	脇山昭治	25.10.28 20才	(小6中退) 工業学校 SENAI (取業訓練コース)卒	佐賀県唐津市
	(サンパウロ) ビニヤール	山田 豊	23.10.6 22才	(中 卒) 小2修了	福井県武生市
ポリ ビア	(サンタクルス) サンファン	仁田原 豊	23.9.4 23才	(小3中退) 高1中退	福岡県八女郡黒木町
バラ グアイ	(アスンシオン) エンカルナシオン	安田 孝	12.4.3 34才	(大2中退) な し	秋田県仙北郡協和村
アル セン チン	(ブエノスアイレス) ブエノスアイレス州 クアルテル・クアル ト・モレノ	榎本一穂	27.3.26 19才	(なし) 2才 渡航時 中 卒	和歌山県田辺市

移住者子弟技術研修生一覽表

研 修 機 関	研 修 内 容
鹿兒島県 農村センター 高等部園芸科	そま培、午前中講義受講、午後除草、消毒、出荷等実習。研修旅行（ヤンマー長浜研究所で3日間農業用エンジン分解・組立実習、長野県営伝中央農場、京都タキイ種苗見学）。
福島県立 農業短期大学 協同組合科	農業経済、農業簿記、農協原論、農協経営論、農業法規、農業機械等講義受講。研修旅行（静岡県三ヶ日農協他2ヶ所）。県内湯野農協等で実習。
愛媛県 果樹試験場南予分場	講義～落葉果樹、病虫害防除、土壌肥料、柑橘栽培等。 実習～夏柑採果、除草、薬剤散布、落果調査等。 落葉果樹研修。
広島県立 西条農業高等学校 広島県食品工業試験場	果物の成分検査、イチゴジャム、ママレードの加工実習、トラクター運転実習。工場見学（三島食品）7/26～8/31県食品工業試験場で研修（農産物加工製造技術および同分析法の課程終了）
佐賀県 養鶏試験場	養鶏経営（衛生、繁殖、育種等）を中心とした講義受講。解体、飼料配合等の実習。全販連佐賀種鶏場における産卵舎、育雛舎、病理解体等の場外実習。
福井県 農業後継者センター 本科畜産専攻	乳牛飼育について午前中講義、午後実習。5/24から1ヶ月間農家実習（乳牛） 7/19～24第2回全国農村青少年研修交換大会（於 八ヶ岳）に参加。
福岡県 種 鶏 場	衛生面を主体に育雛管理、防疫、解剖等の実習。飼料、設備、交配等専門的分野の講義受講。9月より2ヶ月間民間養鶏場で実習（飼育管理の実際、販売流通システム等）。
秋田県立 金足農業高等学校 農協専攻科	農協法、農業経済、簿記等講義受講。7/23～29県経済連で各支部実習。金浦農協等県内農協で実習。8/10～13埼玉県川口市内で農業研修
和歌山県 農業大学校 園芸科花卉部門	農業経営、果樹、作物、畜産、農業機械等講義受講。 サルビア、マリーゴールド、ペコニア等の育苗、定植その他の花卉実習。

第2回(昭和47年度)

国名	地区	氏名	生年月日 (年齢)	渡航 年月日	(日本) 学歴 現地	本籍地または 父親出身地
ブラジル	リオ・デ・ジャネイロ市 バブカイヤ地区	横山 覚	S. 29.5.16 (18)	2 世	( - ) 中 卒	(父) 福島
	サン・パウロ州 ジャカレイ移住地	山 上 としこ	26.12.6 (21)	S. 40.8	(中3中退) 中1中退	愛 媛
	サン・パウロ州 桜 植 民 地	佐 藤 良 洋	25.5.26 (22)	38.1	(中1中退) ( - )	北 海 道
	アマゾナス州 マナウス市	石 沢 力 雄	22.8.9 (25)	29.4	( - ) 商 高 卒	山 形
	ベルナンブーコ州 リオ・ポニート入植地	森 村 正 隆	17.10.11 (29)	31.7	(中2中退)	群 馬
	サンタ・カリーナ州 ラーモス移住地	日 浦 秀 雄	20.10.19 (26)	37.10	(中 退)	北 海 道
	イタプア県 フラム移住地	久 岡 寛	16.6.19 (31)	33.7	(高1修了) 小4修了	高 知
	ポリピア サンタ・クルース県 オキナワ オキナワ第3移住地	久 高 将 行	24.8.3 (24)	36	(小6中退) 高 卒	沖 縄
ドミニカ ベラビア県 バニー地区	藤 川 求	22.12.13 (23)	32.10	(小4中退) 高2在中	愛 媛	

移住者子弟技術研修生一覧表

研 修 機 関	主 な 研 修 内 容
福島県立 小高農業高等学校	野菜・園芸・農学一般
堺市養鶏農業協同組合	畜産（ブロイラ養鶏）
神奈川県立 農業大学校別科	花・果樹
座王ハム有限公司	畜産加工（ハム・ソーセージ）
群馬県畜産試験場	野菜・畜産
長野県園芸試験場	果樹（リンゴ）
群馬県立 農業大学校蚕業学校	養 蚕
三井物産㈱大阪支店 原綿糸織物部綿花課	① 綿花事情 ② 綿花格付士資格取得 （アメリカ）
雇用促進事業団 愛媛総合高等職業訓練校	農業機械修理

第3回移住者子弟

国名	地区名	氏名	年齢	性別	渡航月日	渡航時 年齢
ブラジル国	ノボ・フリブルゴ	野口忠義	24	男	昭和32年 3月	8才
同上	カタバラ	股楽新作	23	男	" 38年 7月	13"
同上	日光	佐々木哲朗	23	男	" 34年 2月	8"
同上	ノボ・ムンド	大塚寛	22	男	" 32年 8月	6"
同上	第2トメアスー	西田清	21	男	" 41年 2月	14"
同上	サンタレン	千葉京子	23	女	" 29年12月	5"
同上	クビチエック	東春好	20	男	" 35年 3月	7"
同上	イボチ	三輪新太郎	22	男	" 29年11月	3"
パラグアイ国	アルト・パラナ	永井儀昭	28	男	" 36年 4月	16"
同上	イグアス	渡辺準一	20	男	" 42年 6月	14"
同上	アマンバイ	岡本儀彦	25	男	" 33年 8月	10"
アルゼンチン国	カルアペー	小野達朗	24	男	" 36年 4月	12"
ボリビア国	オキナワ第1	榎間玄真	25	男	" 29年 7月	6"
同上	サンフアン	長谷研詞	22	男	" 30年 5月	4"
ドミニカ国	ビセンテ・ノーブレ	鈴木 登	23	男	" 33年 5月	9"

技術研修生一覽表

本籍地	研修科目	研 修 先
北海道	花 卉	神奈川県立農業大学校 (48.4 ~ 49.3) (篤農家) 大沢春吉 (49.4 ~ 49.9)
茨 城	養 蚕	群馬県蚕業試験場 (48.4 ~ 49.9)
愛 媛	養 蚕	同 上
徳 島	農 協 貿 易	徳島県農協中堅職員養成所 (48.4 ~ 48.7) 徳島県石井町農業協同組合 (48.8 ~ 48.11) 大洋漁業(株) 貿易第2部 (48.12 ~ 49.9)
宮 崎	農業機械	農林省農業技術研修館 (48.4 ~ 49.3) 茨城イセキ販売(株)ほか (49.4 ~ 49.9)
宮 城	農産加工	宮城県立上沼農校実習部 (48.4 ~ 48.11) 清水市農業協同組合 (48.12 ~ 49.3)
長 崎	花 卉	長崎県総合農林センター (48.4 ~ 48.9) 長崎県大村果樹試験場 (48.10 ~ 49.9)
静 岡	果 樹	山梨県果樹試験場 (48.4 ~ 49.3) (篤農家) 内田金之助 (49.4 ~ 49.9)
愛 媛	畜 産	農林省十勝種畜牧場 (48.4 ~ 48.11) 群馬県畜産試験場 (48.12 ~ 49.9)
福 岡	畜 産	農林省十勝種畜牧場 (48.4 ~ 48.11) 埼玉種畜牧場 (48.12 ~ 49.9)
兵 庫	農 協	兵庫専修職業訓練校 (48.4 ~ 49.3) 兵庫県姫路農業協同組合 (49.4 ~ 49.9)
宮 崎	果 樹	宮崎県立農業大学校 (48.4 ~ 48.10) 長崎県大村果樹試験場 (48.11 ~ 49.3) 農林省園芸試験場、興津支場 (49.4 ~ 49.9)
沖 縄	農 協 貿 易	宮崎県立農協講習所 (48.4 ~ 49.3) 兼 松 江 商 会 (49.4 ~ 49.9)
長 崎	農業機械	農林省農業技術研修館 (48.4 ~ 49.3) イセキ・カワサキサービス販売(株) (49.4 ~ 49.9)
愛 知	果 樹	愛知県農業総合試験場 (48.4 ~ 49.9)

### 第 4 回 移住者子弟技術研修生

地 区	氏 名	研修職種	研 修 機 関 名
リオ デ ジャネイロ イタグアイ	岡崎ノニア マリア (26才)	花 卉	併赤塚植物園
サノハウロ グアタハラ	渡 辺 一 寛 (25才)	養 鶏	茨城県養鶏試験場
サノハウロ 日 光	中 村 弘 (27才)	養 蚕	群馬県蚕業試験場
サノハウロ ピニョール	深 沢 裕 夫 (23才)	果 樹	山梨県果樹試験場
サノハウロ ハルゼア・アレグレ	西 山 立 美 (20才)	農 産 加 工	山口県経済農業協同組合連合会 山口加工場
ヘレーノ モンテ アレグレ	高 谷 和 夫 (26才)	牧 畜	福岡県種畜場
ヘレーノ マナウス	出 田 洋 次 (24才)	自動車整備	熊本県専修職業訓練校
ヘレーノ アカラ	細 越 卓 英 (21才)	"	東京都江戸川高等職業訓練校
レシーフェ クビチェック	竹 並 明 弘 (21才)	柑 橘	福岡県園芸試験場
レシーフェ クビチェック	神 田 晃 児 (19才)	"	"
ポルト アレグレ イタチ	宮 崎 信 精 (28才)	果 樹	熊本県果樹試験場
アスノシオノ フラム	渡 辺 保 夫 (23才)	農 協	広島県農業協同組合研修センター
アスノシオノ アマノハイ	原 本 功 (26才)	"	高知県大方農業協同組合
アスノシオノ アスノシオノ	堤 田 元 克 (22才)	果 樹	山梨県果樹試験場
ブエノス アイレス アノデス	米 慎 也 (21才)	"	"
ブエノス・アイレス ガルアヘー	植 松 吉 巻 (24才)	"	農林省果樹試験場 興津支場
サノタ・クルース オキナワ	平 良 賢 次 (27才)	農 協	福岡県農業協同組合講習所
サノタ・クルース サノフアノ	藤 井 恒 正 (26才)	"	"
サノタ・クルース オキナワ	幸 地 哲 雄 (23才)	"	"
サノト・ドミンゴ ハラハコア	福 永 正 彦 (26才)	農業機械	佐賀県農業研修学園

## 研修機関一覧表

郵便番号	所在地	電話番号	備考
514-22	三重県津市高野尾町	(0592) 26-2851	代表取締役： 赤塚充良
311-31	東茨城郡茨城町大字小幡字栗林320の3	(02929) 2-1133	場長： 吉田 貢
371	前橋市総社町総社2326の2	(0272) 51-5145	場長： 宮沢 鉄雄
405	山梨市万力1530	(05532) 2-1921	場長： 大野 俊雄
759-11	山口市仁保下郷第1,771	(08392) 7-0111	会長：滝口 純 工場長：村本 俊雄
838-01	小郡市北中尾4,839の7	(09427) 2-2128	場長： 尾高 従宣
861-41	熊本市御幸畚町375	(0963) 64-1217	校長： 有働 安則
132	都内江戸川区中央2-31-27	(03) 653-1221	校長： 鈴木 興一
814	福岡市南区大字柏原571	(092) 55-1861	場長： 小原 桂
"	"	"	"
861-53	鹿嶋郡河内町給津	(096300) 24	場長： 西田 久仁徳
730	広島市牛田町早稲田	(0822) 22-5262	所長： 大田 黒 亮
789-19	高知県幡田郡大方町		町長：小野川 俊二 組合長：長野 正季
405	山梨市万力1530	(05532) 2-1921	場長： 大野 俊雄
"	"	"	"
424-02	清水市興津中町	(0543) 69-2111	支場長：千野 知長 場長：佐藤 公一
813	福岡市東区大字名島字沙見2,751の38	(092) 68-0304	所長： 原田 彦
"	"	"	"
"	"	"	"
840-22	佐賀郡川副町南里	(09524) 5-2145	園長： 吉岡 充男



第5回移住者子弟技術

支部および地区名	氏名	年齢	本籍地	研修希望職種	研修機関名
リオ・デ・ジャネイロ					
ブラジリア	大城竹幸	23	沖縄	観葉鉢物	第一園芸KK富士園芸研修学校
サンパウロ					
日光	有田和人	28	愛知	果樹園芸	山梨県果樹試験場
ビニヤール	広瀬昭憲	22	福井	農業機械	福井県農業試験場
ムンドノーボ	田中愛	18	秋田	生活改善	秋田県農業短期大学
グアタバラ	小林武久	19	長野	畜産(養豚)	長野県畜産試験場
日光	中村清	25	三重	養鶏	三重県農業経営大学校
ベレーン					
第2トメアス	平水繁	26	宮崎	畜産(牧畜)	熊本県草地畜産高等研究所
"	遠藤憲一	27	福島	"	福島県畜産試験場
トレゼテンプロ	須藤毅	21	福島	自動車整備	仙台高等職業訓練校
レシーフェ					
サルバドール	吉井丈治	19	千葉	畜産(牧畜)	群馬県畜産試験場
ポルト・アレグレ					
ラーモス	鈴木等	24	北海道	果樹	長野県園芸試験場
アスン・シオン					
イグアス	関節朗	20	群馬	養蚕	群馬県蚕業試験場
アルト・パラナ	工藤則吉	23	岩手	旋盤・電気溶接	盛岡専修職業訓練校
アマンバイ	下元敬	22	高知	畜産	群馬県畜産試験場
ブエノス・アイレス					
ガルアベー	水野悦郎	24	長野	柑橘	静岡県柑橘果樹試験場
ウルキツサ	西田孝	18	長崎	花卉(カネシオン)	長崎県総合農林試験場
サンタ・クルース					
サンフアン	牧尾孝司	19	長崎	畜産(牧畜)	長崎県畜産試験場
オキナワ	宮城邦夫	22	沖縄	"	"
"	池原正英	21	"	"	"

## 研修生研修機関一覧表

郵便番号	所在地	代表者名	電話番号
410-13	静岡県駿東郡小山町上野字下ノ原1101	佐藤正司	0550-6-0645
405	山梨市万力1530	大野俊雄	05532-2-1921
910	福井市泉町辺様52-22	石出慶一郎	0776-24-5100
010-04	南秋田郡大湯村	佐藤健吉	018545-2026
399-07	長野市塩尻大字片丘10847	久保田雄御	02635-2-1186
515-22	一志郡沼野町川北	竹内博	059844-2-1258
869-23	阿蘇郡阿蘇町大字西湯浦1454	寺本一人	09673-2-1231
960-21	福島市荒井字地蔵原甲18	吉田武紀	024504-4
983	仙台市田子字寺1	鈴木正雄	0222-58-1151
371-01	勢多郡富士見村小暮2425	大江正直	027288-2222
382	須坂市大字小河原492	広瀬健吉	02624-5-0295
371	前橋市碓社町碓社2326-2	宮沢鉄雄	0272-51-5145
	盛岡市南仙北3-10-40	外岡九郎	0196-36-1706
371-01	勢多郡富士見村小暮2425	大江正直	027288-2222
424	清水市駒越2712	中間和光	0543-34-5351
854	諫早市貝津町3118	高木睦夫	09572-2-3330
859	南高来郡有明町湯江丁3600	宮島良明	0957605-516
859	"	"	"
859	"	"	"

第6回移住者子弟技術

支部および地区名		氏名	年齢	本籍地	研修職種	研修機関名
(リオ・デ・ジャネイロ)	イタグアイ	島山幸枝	26	(石川)	生活改善	宮城ドレスメーカー専門学校
(サンパウロ)	モジダス・クルーゼ	米村隆一	20	(熊本)	花卉園芸	熊本県農業試験場園芸支場
	ロンドリーナ近郊	大塚由起子	25	熊本	生活改善	宮城ドレスメーカー専門学校
	グアタバラ	高橋定次郎	26	山形	畜産	山形県立農業経営大学校
	日光	竹田和夫	27	高知	農業機械	神奈川県農業大学校
(ベレーン)	グアマ	米川洋二	27	熊本	畜産	安達養鶏場
	ベラビスタ	喜納清美	21	(大分)	農業機械	北海道フォードトラクター部
	第2トメアスー	四元敏夫	24	宮崎	農業機械	北海道立中央農業試験場
(レシフェ)	レシフェ近郊	岩田健一	25	(長野)	畜産	千葉県畜産センター
(ポルト・アレク)	ラーモス	桑原正行	29	長崎	花卉園芸	北山兄弟バラ園
(アスンシオン)	イグアス	公文茂男	25	高知	畜産	岡崎牧場
	アルト・バラナ	篠藤喜男	23	愛媛	農協業務	愛媛県農業協同組合研修所
	アマンバイ	岡本深幸	25	兵庫	生活改善	日本高等国民学校
(フェノス・アイレス)	ウルキツサ	橋本敬之	29	福岡	花卉園芸	花卉栽培農家
	・	木村茂	24	群馬	花卉園芸	群馬県園芸試験場
(サンタ・クルス)	サンフアン	畑原等	25	長崎	農業機械	岩見沢機械センター(株)
	・	吉永末広	24	長崎	農協業務	川副農業協同組合
	オキナワ	山城博明	21	沖縄	畜産	沖縄県家畜衛生試験場

研修生研修機関一覧表（後期）

郵便番号	所在地	代表者名	電話番号
980	宮城県仙台市春日町9番10号	菅野貞子	0222-22-5221
861-11	熊本県菊池郡西合志町須磨2450	小林研二	09624-2-0167
980	宮城県仙台市春日町9番10号	菅野貞子	0222-22-5221
996	山形県新庄市大字角沢1336	新関信一郎	02332-2-1527
243-04	神奈川県海老名市杉久保2006	和泉清久	0462-21-5274
861-01	熊本県鹿本郡植木町岩野927	安達 誠	09627-2-0359
078-02	旭川市永山三条6丁目64番地	高薄達雄	0166-48-1101
069-13	北海道夕張郡長沼町東六線北15	島崎佳郎	01238-9-2311
289-11	千葉県印旛郡八街町滝台	鹿間義之	0472-95-4511
	アメリカ合衆国カリフォルニア州ユニオンシティ	Ted 北山	
780	高知県高知市円行寺169	岡崎正英	0888-72-9496
791-31	愛媛県伊予郡松前町西高柳	岡田慎吾	08998-4-2243
319-03	茨城県東茨城郡内原町内原1497	加藤 颯彦	029259-2003
834	福岡県八女市大字忠見384	藤田 恵	09432-2-4635
379-22	群馬県佐波郡東村大字西小保方493	中村吉男	02706-2-1021
068	北海道岩見沢市四条15丁目3番地	渡辺 一一	01262-2-4421
840-22	佐賀県佐賀郡川副町大字鹿江2304	大坪 平	09524-5-5111
902	沖縄県那覇市古波蔵112	上里宣治	0988-32-1515

第7回移住者子弟技術研修生

支部および地区名	氏名	年齢	本籍地	研修職種	研修機関名
リオ・デ・ジャネイロ	バルバセーナ	市来清文	27 宮崎	花卉園芸	英香園
サンパウロ	ロンドリーナ	高橋昇ジュリオ	27 (北海道)	養蚕	群馬県蚕業試験場
	イタベチ	土生誠一	26 宮城	花卉園芸	株式会社小池硝子店
	サンパウロ	樋口寛	26 熊本	建築施工	戸田建設株式会社
	〃	服部ロウレンソ	23 (秋田)	電話交換機工事	日本通信建設株式会社
	スザノ	上西川原 猛	29 鹿児島	自動車修理	千葉トヨタ自動車株式会社
ベレーン	サンタ・イザベル	三宅正剛	24 長崎	自動車修理	長崎県交通局中央自動車整備工場
	ポルト・ベリヨ	服部元	26 東京	農協経理	熊本県信用農業協同組合連合会
レシフェ	サルバドール	平田繁実	22 長野	電気工事	有限会社 梅本電設
アスンシオン	エンカルナシオン	荒横文彦	24 広島	食油精製	日清製油株式会社
	ラ・コルメナ	三井昭	30 長野	果樹園芸	功刀幹治(方)
	イグアス	佐藤清	21 岩手	農協経理	住田農業協同組合
ブエノス・アイレス	ウルキツサ	西田克己	25 長崎	花卉園芸	藤田侃司(方)
	ヘネラルパチエコ	光田友宏	25 (愛媛)	花卉園芸	永田洋園
サンタ・クルス	サンフアン	上野克之	22 長崎	養鶏	石田鉄工株式会社
	〃	川上啓介	20 長崎	畜産	農林省十勝種畜牧場
	オキナワ第1	安里 マルヒロ	21 沖縄	養鶏	沖縄県家畜衛生試験場
サント・ドミンゴ	レモンデ・ジウナ	川代康夫	24 北海道	畜産	農林省十勝種畜牧場

研修機関一覧表（後期）

郵便番号	所在地	代表者名	電話番号
732-22	広島県佐伯郡大柿町大原	長坂五郎	082357-2204
371	群馬県前橋市総社町総社2326-2	岡部光波	0272-51-5145
989-02	宮城県白石市宇沢目6番	小池宗次	02242-6-2376
104	東京都中央区京橋1丁目3番地 新八重州ビル	戸田順之助	03-562-6111
108	東京都港区高輪3丁目23番14号	津重正	03-447-2111
280	千葉県千葉市登戸町2丁目140番地	鳥海一郎	0472-41-8111
854	長崎県諫早市貝津町1481	平井寛	09572-6-1642
860	熊本県熊本市南千反畑町2番3号	吉永淳	0963-55-6345
860	熊本県熊本市清水町万石6番地	梅本明助	0963-44-2323
235	神奈川県横浜市磯子区新森町1番地	大島政志	045-751-1281
400-02	山梨県中巨摩郡白根町西野2854	功刀幹治	05528-2-2557
029-24	岩手県気仙郡住田町下有住字十文字	佐藤博	01924-8-2311
673-02	兵庫県神戸市垂水区平野町福中147	藤田侃司	078-961-2101
472	愛知県知立市牛田町芋堀1番地	永田一策	0566-81-0041
498	三重県桑名郡木曾岬町東見入	石田昭三	05676-5-1155
080-05	北海道河東郡音更町字中音更	中園信善	015597-31-2
902	沖縄県那覇市古波蔵112	上里宣治	0988-32-1515
080-05	北海道河東郡音更町字中音更	中園信善	015597-31-2

第 8 回 移住者子弟技術

支部および地区名		氏名	年齢	本籍地	研修機関	研修機関名	郵便番号
リオ・デ・ジャネイロ	フンシャル	今村真一	22	福岡	畜産	福岡県種鶏場	818-01
サンパウロ	サンパウロ	林田秀房	23	(熊本)	油圧技術	太陽鉄工(株)	533
	サンパウロ	百合正夫	27	(愛媛)	果樹園芸	長野県農業総合試験場	382
	クリチーバ	高橋アヲ富	25	(福島)	養魚孵化	石川県庁舎試験場	926-02
	モジ・ダス・クルーゼス	田中勝彦	22	香川	食用作物	熊本県農業試験場園芸支場	861-11
ベレーン	マナオス	高野裕弥	25	北海道	自動車修理	苫小牧専修職業訓練校	053
	グアマ	横山富貴子	22	宮崎	生活改善	日本高等国民学校	319-03
ポルト・アレグレ	イタブアン	道田藤吉	20	熊本	果樹園芸	熊本県果樹試験場	869-05
	ラーモス	岩崎正基	22	山口	果樹園芸	岡山県農業試験場	709-08
アスンシオン	アマンバイ	中島義明	29	熊本	農業機械	神奈川県立農業大学校	243-04
	フラム	松岡健	18	高知	農協運営	福岡県農業協同組合講習所	813
	アルト・バラナ	石原由起	17	(兵庫)	医療	聖ヨゼフ病院准看護学院	238
ブエノス・アイレス	ガルアペー	山田陽二	29	広島	花卉園芸	赤塚植物園	514-22
サンタ・クルス	サンフアン	近藤勇	18	(新潟)	畜産	農林省十勝種畜牧場	085-05
	サンフアン	山口政雄	19	長崎	農業機械	長崎高等職業訓練校	859-06
	オキナワ第1	具志堅進	22	(沖縄)	農業機械	具志川専修職業訓練校	904-22
	オキナワ第3	中村安栄	24	沖縄	電気工事	具志川専修職業訓練校	904-22

研修生研修機関一覧表

所在地 / 帰国後の連絡先
福岡県筑紫郡太宰府町大字大宰府 / CEP 28680, Caixa Postal No 21, Fazenda Funchal, Cachoeiras de Macaco, Est do Rio de Janeiro Brasil
大阪府大阪市東淀川区北江口町48番地 / CEP 04130, Av Camilo Castelo Branco No 54, Vila Gumercindo, Sao Paulo Capital, Brasil
長野県須坂市大字小河原492 / CEP 18190, Rua José Braga Sobrinho No.157, Pilar do Sul, Est de Sao Paulo, Brasil
石川県鹿島郡能登島町字曲 / CEP 86280, Caixa Postal No.147, Uraí, Est. do Paraná, Brasil
熊本県菊池郡西合志町須陸2450 / CPE 08700, Caixa Postal No 1, Mogi das Cruzes, Est de Sao Paulo, Brasil
北海道苫小牧市日吉町3丁目4番の1 / Av. Tarumã No.422, Manaus, Est do Amazonas, Brasil
茨城県東茨城郡内原町1497 / No.3515, Bairro Niarcos, Belem, Para, Brasil
熊本県上益城郡松橋町豊福2566 / CEP 90000 a/c Comercial Agrícola Semeagro Ltd. No 425, Rua Vitor Valpirio, Bairro Anchieta Porto Alegre, Est de Rio Grande do Sul, Brasil
岡山県赤磐郡山陽町神田沖1174-1 / CEP 89520, Caixa Postal No 161, Curitiba, Est de Santa Catarina, Brasil
神奈川県海老名市杉久保2006 / a/c Coop Amambay, Caixa Postal No 128, Ponta Pora, Est de Matto Grosso do Sul, Brasil
福岡県福岡市東区大字名島2751-38 / a/c Cooperativa La Paz, Casilla de Correo No 4, Encarnación, Paraguay
神奈川県横須賀市緑が丘28番地 / a/c Agencia de Cooperación Internacional del Japon, Casilla de Correo No 38, Encarnación, Paraguay
三重県津市高野尻町1868の3 / Colonia Lujan Garuhape, Provincia de Misiones, Argentina
北海道河東郡音更町字中音更 / Casilla de Correo No.464, Colonia San Juan, Santa Cruz, Bolivia
長崎県西彼杵郡長与町高田郷 / Casilla de Correo No 464, Santa Cruz, Bolivia
沖縄県具志川市字兼箇段1945番地 / Colonia Okinwa, Casilla de Correo No.582, Santa Cruz, Bolivia
沖縄県具志川市字兼箇段1945番地 / Casilla de Correo No.262, Santa Cruz, Bolivia



第 9 回 移住者子弟技術研修生

支援 部	地 区	氏 名	年令	本籍地	研修職種	研 修 機 関 名
サンパウロ	グアタバラ	大津 敏一	19	茨城	養 鶏	茨城県養鶏試験場
	イピウーナ	林ルイス伸明	18	(高知)	植物病理	高知県立農業大学校
	ブリヂャー・ミリン	菅野 弘	22	福島	T V 修理	横浜高等職業訓練校
ベレーン	グアマ	吉野ペドロ顯	18	(宮崎)	園 芸	宮崎県総合農業試験場
	ポルト・ウエリヨ	須藤 グロリア	21	(福島)	生活改善	日本高等国民学校
オホホク	フンシヤール	小松 滋	23	北海道	果 樹	岡山県農業試験場
アポグレン	ペロタス	横山 隆	31	北海道	畜 産	農林水産省十勝種畜牧場
アスンシオン	イグアスー	上田 時江	24	広島	助産婦	広島県立広島病院
	アルトバラナ	村尾 健明	22	鹿児島	機械修理	熊本県立熊本高等職業訓練校
	フ ラ ム	松尾 あけみ	19	(高知)	看護婦	土佐看護学校
	イグアスー	菅野 忠	24	秋田	養 鶏	秋田県畜産試験場
アエレス	ポンテペドラ	重永 智平	25	山口	バラ栽培	岡山県農業試験場
サンタ・クルス	オキナワ	長 嶺 マリオ	20	(沖縄)	電 気	沖縄県立具志川専修職業訓練校
	サンファン	米倉 美智也	21	長崎	旋盤、溶接	長崎高等職業訓練校
	サンファン	深浦 伸明	21	長崎	養 鶏	福岡県種鶏場
	オキナワ	具志堅 るり子	18	(沖縄)	看護婦	社団法人 那覇地区医師会 那覇高等看護専修学校
ベルー	リ マ	森崎エリザベス	18	—	花卉園芸	神奈川県立農業大学校
	リ マ	丸山 ロベルト	22	—	車輛整備	熊本県立熊本高等職業訓練校

研修機関一覧表

郵便番号	所在地	代表者名	電話番号
310	茨城県東茨城郡茨城町小幡	中島 進	02929-2-1133
781-21	高知県吾川郡伊野町波川 2 3 4	小松 貞記	08889-2-3000
241	神奈川県横浜市旭区中尾町 5 6	鈴木 孝	045-363-1231
880-02	宮崎県宮崎郡佐土原下那珂字峰の前 5 8 5 1	匹田 巖	09857-3-2121
319-03	茨城県東茨城郡内原町 1 4 9 7 (女子部)	加藤 弥彦	029259-2003
709-08	岡山県赤磐郡山陽町神田沖 1 1 7 4 - 1	松本 蕃	08695-5-0271 ~7
085-05	北海道河東郡音更町字中音更	池田 森男	0554-4-2251
734	広島市宇品神田 1 丁目 5 - 5 4	浦城 二郎	0822-54-1818
861-41	熊本市御幸苗田 3 7 5	井田 博視	0963-78-0121
780	高知市山ノ端町 7	縄木 高行	0888-22-7211
019-17	秋田県仙北郡神岡町神宮寺字上高野 2	佐々木 鉄太郎	018772-2511
709-08	岡山県赤磐郡山陽町神田沖 1 1 7 4 - 1	松本 蕃	08695-5-0271 ~7
904-22	沖縄県具志川市字兼箇段 1 9 4 5 番地	比屋根 隆夫	098972-5954
859-06	長崎県西彼杵郡長与町高田郷	一瀬 英章	0958-56-8151
818-01	福岡県筑紫郡太宰府町太宰府	岡野 昇	09292-2-4100
900	那覇市東町 2 6 番地 1	花城 清彦	0988-68-4459
234-04	神奈川県海老名市杉久保 2 0 0 6	和泉 清久	0462-31-5274
861-41	熊本市御幸苗田 3 7 5	井田 博視	0963-78-0121

LIB